

長崎原爆資料館展示更新実施設計

令和8年3月

長崎市

■ 目次

基本的な考え方	01
展示シナリオ	02~07
展示ゾーニング図	08~09
コーナー概要	
A. 1945年8月9日	10
1. 1945年8月9日	11
B. 原爆による被害の実相	12
2. 原爆による被害の実相	13~15
休憩スペース	16
C. 核兵器のない世界を目指して	17
3. 二つの世界大戦	18~24
4. 核兵器の脅威	25~29
5. 長崎のあゆみ	30~35
世界のヒバクシャなどに関する展示	36
長崎の被爆者などに関する展示	36
平和は長崎から	37
D. ビデオルーム	38
情報メディアコーナー	39
ユニバーサルデザインの推進	40
開館しながらの工事への対応	41

展示更新にかかる基本方針

1 長崎原爆資料館の基本理念・設置目的（再掲）

(1) 基本理念

長崎国際文化会館の建て替えにあたり作成した基本構想及び基本計画において、原爆資料館の基本理念を次のように定めている。（平成4年（1992年）2月）

長崎市は、原爆被爆都市の使命として核兵器の脅威と非人道性、戦争の悲惨さ、平和の大切さを世界に訴える責務がある。
したがって、原爆被爆に関する資料の体系的な整備、展示、保存を図るとともに戦争の恐ろしさと原爆被爆の体験を次代を担う子供たちに語り伝え、世界恒久平和実現に努力する国際平和都市長崎のシンボリックな施設とする。

(2) 設置目的

長崎原爆資料館の開館に向け、長崎原爆資料館条例を制定し、資料館の設置目的を次のように定めている。（平成7年（1995年）12月）

（設置）

第1条 本市は、原子爆弾により被爆した都市の使命として、被爆の実相と長崎市民の平和への願いを広く国の内外に伝え、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に寄与するため、原爆資料館を設ける。

（事業）

第3条 長崎原爆資料館は、次に掲げる事業を行う。
（1）被爆及び平和に関する資料の調査、収集、保存及び展示に関すること。
（2）平和学習、被爆体験の継承その他平和を考える場の提供に関すること。
（3）平和を推進するための調査及び研究に関すること。
（4）その他市長が必要と認める事業

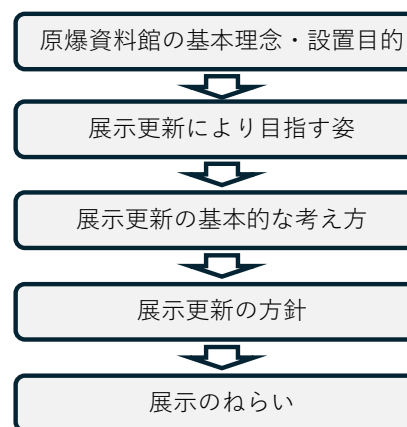
2 展示更新により目指す姿

原爆の被害を遠い昔の出来事ではなく、今の自分にも起こりうることとして受け止め、自ら平和を考え、行動することにつながる資料館になっている。

3 展示更新の基本的な考え方

館の基本理念や目的は変えず、時代の変化に応じて展示内容を更新する。

- （1）戦争から遠くなった世代に、戦争（核兵器）によって日常が壊されることを自分事として捉えてもらうことで、原爆の被害の実相や被爆者の苦しみと願いをわかりやすく伝える。
- （2）誰もが今も核兵器のある世界に生きる当事者であると同時に、平和な未来をつくる当事者であることへの気づきにつなげる。
- （3）一人ひとりが身近なところから平和について考え、行動するきっかけをつくる。



■長崎原爆資料館 展示構成 (1)

ゾーン	目的	展示大項目	展示中項目	ねらい (展示大項目)	展示小項目	主な展示手法	主な展示資料
円形スロープ 円形パビリオン	戦争を知らない世代でも、戦争を他人事ではなく、自分の身にも起こりうるものとして捉えられるようにする。	円形スロープ 円形パビリオン	時をさかのぼる回廊	現在から1945年8月9日11時2分に向けて、時を遡るイメージを共有しながらスロープをたどる。そして、戦争中とはいえ、被爆前の長崎にも今の私たちが変わらない人々の暮らしがあり、そうした日常が一発の原子爆弾によって奪われてしまったことを知ってもらおう。	—	グラフィック (既存)	年代表記 (既存)
ロビー		ロビー	—		—	被爆前の暮らし	被爆前の暮らしや街並みに関する写真・映像など
A. 1945年8月9日	導入部。原爆投下により、長崎の街並みや人々の暮らしが一瞬で破壊されたことを伝える。	1. 1945年8月9日	1-1. 永遠の11時2分	決して忘れてはならない1945年8月9日11時2分を象徴する資料の展示や、被爆前後の様子が比較できる長崎の街並みの写真などを紹介し、長崎に投下された原爆の威力や被害の惨状などを視覚的に理解したうえで、資料館の見学を始められるようにする。	メッセージサイン	アクリル切文字 (既存)	「長崎を最後の被爆地に」多言語テキスト
			1-2. 被爆前後の長崎		—	展示ケース	破壊され停止した柱時計
			1-3. 原爆投下		被爆前後の長崎	グラフィック・写真	被爆前後の様子が比較できる写真など
B. 原爆による被害の実相	被爆資料を通して、原爆被害の凄まじさや非人道性、惨状を理解してもらい、このような悲劇を二度と繰り返してはならないということを伝える。	2. 原爆による被害の実相	2-1. 原子野と化した長崎の街	—現状展示を継承—	原爆投下	グラフィック 米軍の原爆投下映像をループ上映	原爆投下の映像
			2-2. 浦上天主堂の惨状				
			2-3. 長崎原爆投下までの経過				
			2-4. 被爆した長崎の街				
			2-5. 長崎型原爆 (ファットマン)				
			2-6. 熱線による被害				
			2-7. 爆風による被害				

■長崎原爆資料館 展示構成 (2)

ゾーン	目的	展示大項目	展示中項目	ねらい (展示大項目)	展示小項目	主な展示手法	主な展示資料
B. 原爆による被害の実相	被爆資料を通して、原爆被害の凄まじさや非人道性、惨状を理解してもらい、このような悲劇を二度と繰り返してはならないということを伝える。	2. 原爆による被害の実相	2-8. 放射線による被害	被爆者がいかに長く放射線に苦しめられ、またどのように向き合ってきたのか、医学の進歩による新しい知見も含め、わかりやすく伝えることで、原爆が単なる大きな爆弾ではなく、長期的な健康被害をもたらす特殊な爆弾であることを理解してもらおう。	2-8-1. 原子爆弾と放射線	グラフィック	—
					2-8-2. 初期放射線と残留放射線	グラフィック	放射線の種類と性質、初期放射線と残留放射線の模式図など
					2-8-3. 被ばく線量と人体への影響	グラフィック・写真	放射線への感受性が高い部位と主な症状を示す人体図など
					2-8-4. 急性障害と後障害	グラフィック・写真・資料・絵画	脱毛や皮下出血などの写真 急性障害で亡くなった被爆者に関する資料など
					2-8-5. 胎内被爆	グラフィック・写真・資料・絵画	被爆した妊婦が描いた絵画 小頭症患者の写真など
					2-8-6. 遺伝的影響	グラフィック	—
					2-8-7. 被爆医療の取り組み	グラフィック	—
					2-8-8. 医学的調査の始まり	グラフィック・写真	調教授の手記 放射線による障害の図表など
					2-8-9. 被爆医師の証言	グラフィック・写真・資料・映像	朝長先生の証言映像など
					2-8-10. 人体影響の生涯持続性	グラフィック・写真	MDSの増加を示す図表など
			2-9. 救援・救護活動	被爆直後の困難を極めた救援・救護と、その活動に従事した人々について知ってもらおう。	2-9-1. 混乱と慟哭の中で	グラフィック・写真・資料	秋月辰一郎医師に関する資料 救護所で使用された医療器具など
					2-9-2. 永井隆博士	グラフィック・写真・資料	永井隆博士の写真や遺品など
			2-10. 被爆者と遺族の戦後	被爆者や遺族のエピソードを通して、原爆が長期にわたって人々を苦しめ続けた事実を認識してもらおう。	2-10-1. 身体的・精神的な苦しみ	グラフィック・写真・資料	後遺症やトラウマを抱えた人々に関する資料など
					2-10-2. 大切な人を失った悲しみ	グラフィック・写真・資料	家族や友人を亡くした人々に関する資料など
2-10-3. 生活における困難	グラフィック・写真・資料	原爆孤児や孤老、貧困にあえぐ人々に関する資料など					
2-10-4. 社会的な差別と偏見	グラフィック・写真・資料	就職や結婚の際に不当な扱いを受けた人々に関する資料など					
2-11. 被爆者の訴え	—現状展示を継承—	—	—	—			

■ 長崎原爆資料館 展示構成 (3)

ゾーン	目的	展示大項目	展示中項目	ねらい (展示大項目)	展示小項目	主な展示手法	主な展示資料
C. 核兵器のない世界を目指して	原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。	休憩スペース	—	—	—	—	—
		3. 二つの世界大戦	象徴展示：核兵器の誕生	歴史をきちんと見つめることが未来につながるという姿勢のもと、原爆投下の背景にあった歴史や原爆の開発から投下に至るまでの道のりを客観的かつ多角的な視点からわかりやすく説明することで、戦争から遠くなった世代が戦争の愚かさや核兵器の非人道性について考えられるようにする。	原子爆弾 (模型)	原寸模型	ガジェットの原寸模型 AR：原子爆弾さく裂の仕組み
					兵器の開発と戦い方の変容	グラフィック・写真	毒ガスや戦車、飛行機の写真など
			3-1. 第一次世界大戦 平和に向けた国際秩序の形成		3-1-1. 世界戦争への道	グラフィック・写真・資料	帝国主義に関する写真や絵画、サラエボを訪れたオーストリア皇位継承者夫妻の写真など
					3-1-2. 総力戦と新兵器の出現	グラフィック・写真・映像	塹壕でガスマスクを着用した兵士の写真、第一次世界大戦の映像など
					3-1-3. 平和主義と国際協調体制の確立	グラフィック・写真	国際連盟第一回総会の写真、ワシントン会議の写真など
					3-1-4. 戦闘行為の規制と戦争の違法化	グラフィック・写真	パリ不戦条約に署名・調印する各国全権の写真、戦闘行為や戦争を規制する国際法の表など
			3-2. 第二次世界大戦 戦争へ向かう日本と国際社会		3-2-1. 満洲事変と国際連盟からの脱退	グラフィック・写真	満洲事変と満洲国建国に関する写真、「大満洲国」のチラシなど
					3-2-2. 日中戦争の拡大と長期化	グラフィック・写真・資料	日中戦争における日本軍の写真、国内の戦時体制に関する写真やポスターなど
					3-2-3. 第二次世界大戦とアジア・太平洋戦争の勃発	グラフィック・写真・映像	ポーランドを侵襲するドイツ軍の写真、真珠湾攻撃で炎上する戦艦アリゾナの写真など
					3-2-4. 世界戦争の実相と展開	グラフィック・写真・資料	連合国による空襲と破壊された街の写真、沖繩戦の写真など
			3-3. 核時代の幕開け 原子爆弾の開発と投下		3-3-1. 原爆の開発と実用化	グラフィック・写真・資料・映像	モード委員会報告書の写真、トリニティ実験の映像、トリニタイトなど
					3-3-2. 原爆の使用決定	グラフィック・写真	ルーズベルト大統領とチャーチル首相の写真、原爆投下命令書の写真など
					3-3-3. 原爆投下に反対する人々	グラフィック・写真	ジョージ・マーシャルの写真、ジェームズ・フランクとフランクレポートの写真など
					3-3-4. 広島・長崎への原爆投下	グラフィック・写真	原爆投下の目標とされた都市の図、原爆で壊滅した広島と長崎の写真など
			戦時下の長崎		1. 軍需産業都市・長崎	グラフィック・写真・映像	戦艦武蔵や九一式魚雷の写真、被爆前の長崎の街並みを写した映像など
					2. 長崎から戦場へ	グラフィック・写真・資料	長崎市内における出征風景の写真、千人針や恩賜の煙草など
					3. 銃後のくらし	グラフィック・写真・資料	大日本国防婦人会の写真、戦地に発送する慰問袋の写真など
					4. 勤労動員の日々	グラフィック・写真・資料	軍需工場に動員される学生の写真、学徒報国隊の腕章など
					5. 警報下の長崎と空襲	グラフィック・写真・資料	防空演習の写真、防空頭巾とモンペなど

■長崎原爆資料館 展示構成 (4)

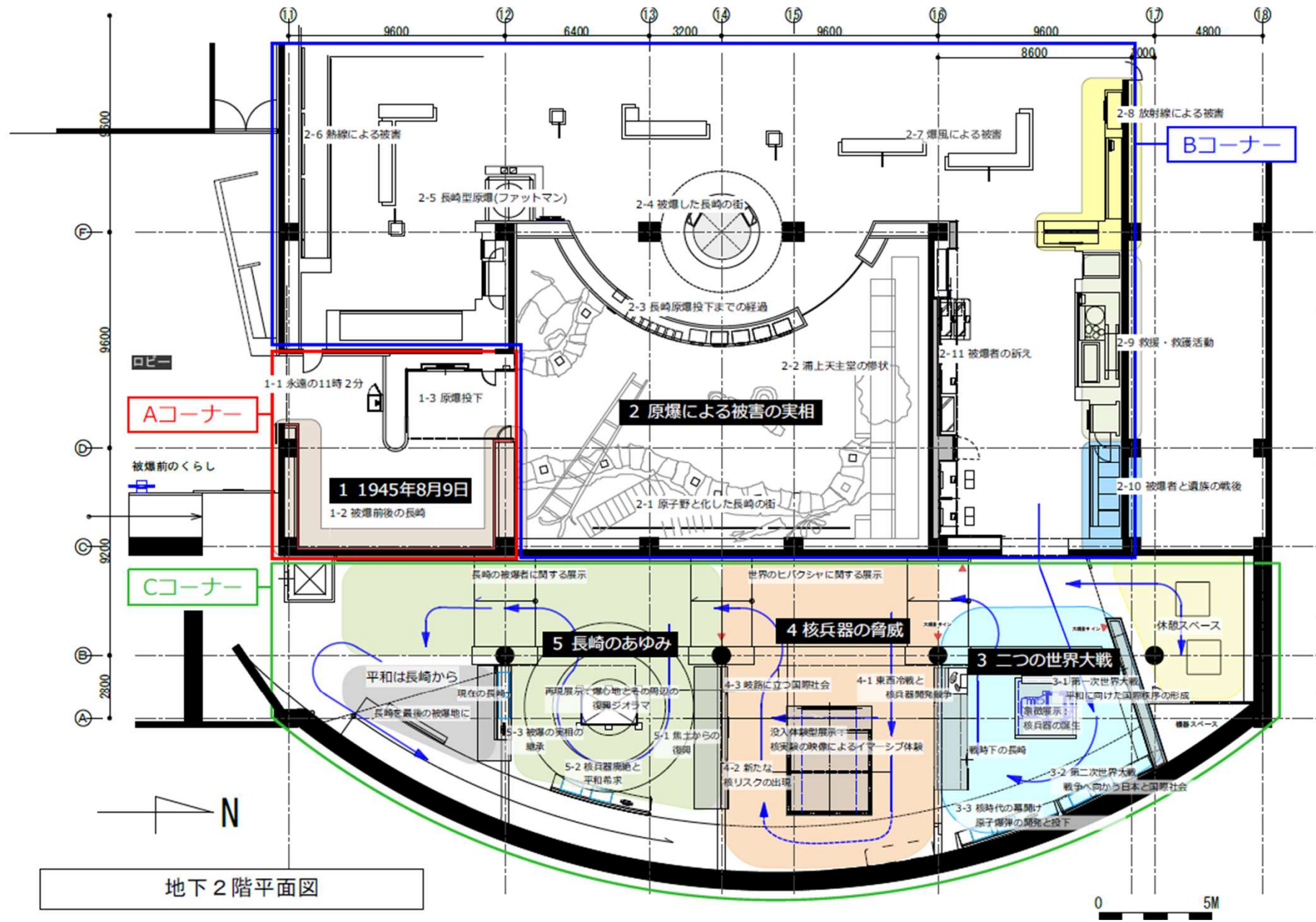
ゾーン	目的	展示大項目	展示中項目	ねらい (展示大項目)	展示小項目	主な展示手法	主な展示資料
C. 核兵器のない世界を目指して	原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。	4. 核兵器の脅威	没入体験型展示：核実験映像によるイマージョン体験	核兵器の開発をめぐる複雑な歴史や国際情勢、そして近年、核兵器使用の危険性が高まっていることを伝えることで、誰もが核兵器が存在する世界に生きる当事者であると自覚してもらうとともに、被爆地をはじめ、世界の多くの人々が核兵器廃絶のための活動に取り組んでいることを知ってもらう。	原水爆実験映像	体験型映像	水爆実験の映像 (3面映像) など
			4-1. 東西冷戦と核兵器開発競争		4-1-1. 原子力の国際管理の失敗	グラフィック・写真・資料	冷戦の構造を示す地図など
					4-1-2. 原子爆弾から水素爆弾へ	グラフィック・写真・資料	水爆実験の写真 世界終末時計に関する資料など
					4-1-3. 第五福竜丸事件と原水爆禁止運動	グラフィック・写真・資料・模型	第五福竜丸事件に関する資料 原水爆禁止世界大会の写真など
					4-1-4. 世界が最も核戦争に近づいた日	グラフィック・写真	キューバ危機の写真 米ソによる核戦争の危機を風刺した作品など
					4-1-5. 核拡散防止への取り組み	グラフィック・写真・資料	核兵器廃絶への取り組みに関する写真や資料など
			4-2. 新たな核リスクの出現		4-2-1. 核軍縮の前進とアジア・中東での核拡散	グラフィック・写真・資料	新興核保有国の核開発に関する資料など
					4-2-2. 核兵器関連物質と開発技術の流出	グラフィック	核の闇市場に関する図など
					4-2-3. 核テロの危険性	グラフィック・写真	想定される核テロリズムの図など
			4-3. 岐路に立つ国際社会		4-3-1. 核使用リスクの高まり	グラフィック・映像・資料	核兵器使用のシミュレーション「核の脅し」を報じる新聞記事など
4-3-2. 核兵器禁止条約の発効	グラフィック・写真・資料	核兵器禁止条約の採択時の写真など					
4-3-3. 日本被団協のノーベル平和賞受賞	グラフィック・写真・資料	ノーベル平和賞の授賞式の写真など					
世界のヒバクシャなどに関する展示	—	グラフィック・写真・映像	核実験の被害者に関する写真など				

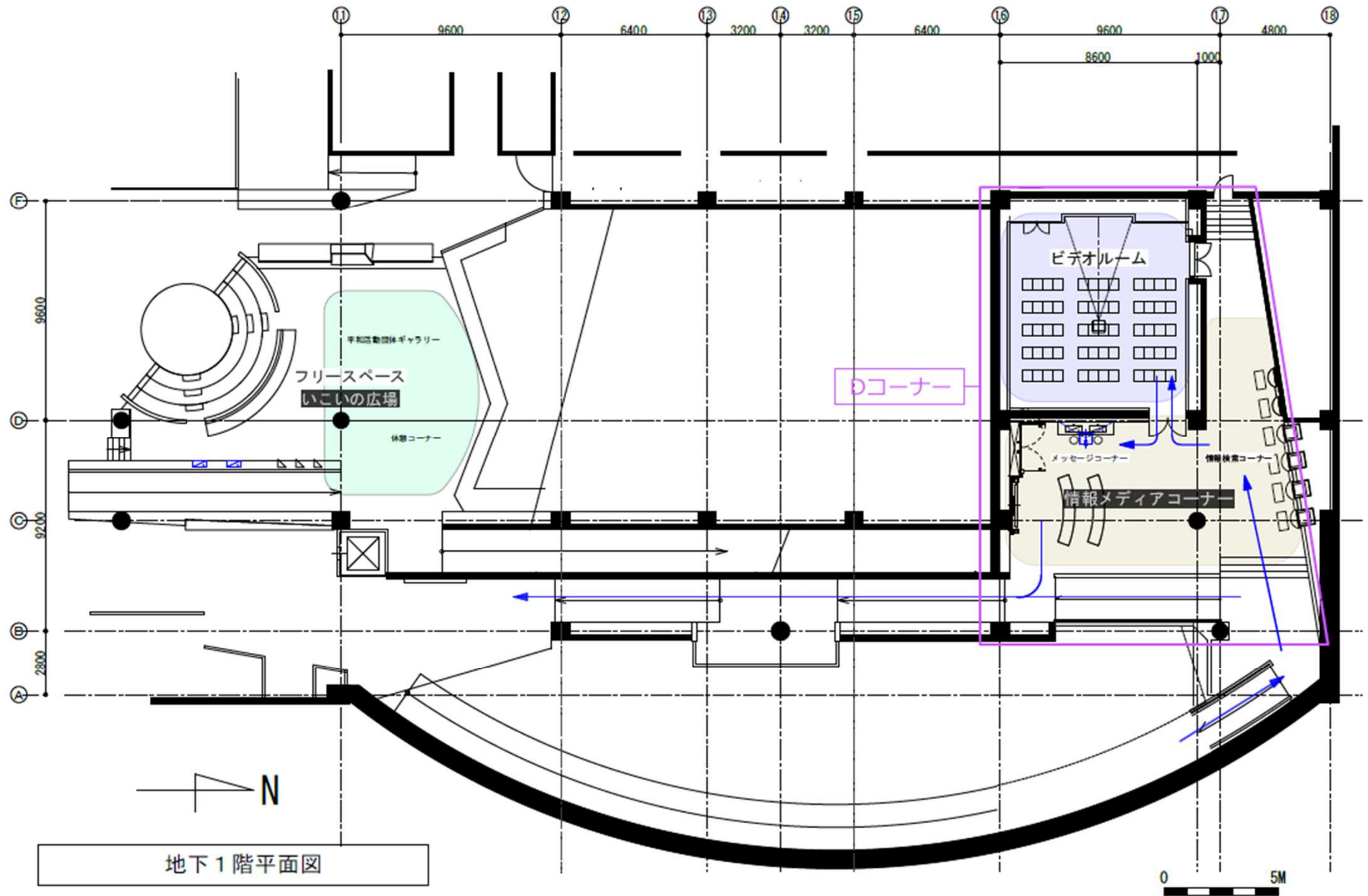
■長崎原爆資料館 展示構成 (5)

ゾーン	目的	展示大項目	展示中項目	ねらい (展示大項目)	展示小項目	主な展示手法	主な展示資料
C. 核兵器のない世界を目指して	原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。	5. 長崎のあゆみ	再現展示： 爆心地とその周辺の復興ジオラマ	長崎の平和と核兵器廃絶に向けた取組みが過去から現在に至るまで絶え間なく続いていることを示すことで、長崎市民の平和と核兵器廃絶に対する願いに共感してもらい、未来へ受け継いでもらう。	原爆投下から10年が経過した爆心地付近	原爆投下から10年が経過した爆心地付近の様子： 縮小ジオラマ AR：被爆直後、1955年、現在の写真・映像	原爆投下から10年後の爆心地付近のジオラマ
			5-1. 焦土からの復興		5-1-1. 被爆後のくらし	グラフィック・写真・資料・映像	焼け跡に建てられたバラックの写真、被爆後の街の様子を写した映像など
					5-1-2. 占領軍の駐屯と都市機能の復旧	グラフィック・写真	デルノア通りの看板を見るデルノア氏とキャサリンの写真、岩川町の戦災復興住宅の写真など
					5-1-3.長崎国際文化都市建設法	グラフィック・写真・資料	長崎国際文化都市建設の平和宣言を行う長崎市長の写真、平和祈念像や長崎国際文化会館の写真など
					5-1-4. 原爆犠牲者の慰霊と平和祈念	グラフィック・写真・資料	原爆犠牲者慰霊並びに平和祈念式典の写真、平和宣言文など
			5-2. 核兵器廃絶と平和希求		5-2-1. 原水爆禁止運動の始まり	グラフィック・写真・資料	第2回原水爆禁止世界大会の写真、被爆体験を証言する被爆者の写真など
					5-2-2. 広がる反核・平和運動	グラフィック・写真	平和首長会議や非核宣言自治体協議会の写真、長崎平和推進協会やながさき平和大集会の写真など
					5-2-3.ナガサキから世界へ	グラフィック・写真・映像	国連で演説する山口仙二さんの映像、海外原爆展の写真など
					5-2-4.次世代がつむぐ平和	グラフィック・写真	高校生平和大使の写真、高校生1万人署名活動の写真、ナガサキ・ユース代表団の写真など
			5-3. 被爆の実相の継承		長崎の被爆者などに関する展示	5-3-1.ナガサキを残し、伝える	グラフィック・写真・資料
		5-3-2.被爆遺構の保存と活用		グラフィック・写真・映像		被爆遺構や被爆樹木の写真など	
		5-3-3.未来につなぐ被爆の記憶		グラフィック・写真		家族・交流証言者や青少年ピースボランティアの写真など	
		平和は長崎から	現在の長崎	最後にあらためて「長崎を最後の被爆地に」のメッセージを共有してもらう。	—	グラフィック	現在の稲佐山からの風景写真
			長崎を最後の被爆地に		—	グラフィック	「長崎を最後の被爆地に」多言語テキスト

■長崎原爆資料館 展示構成 (6)

ゾーン	目的	展示大項目	展示中項目	ねらい (展示大項目)	展示小項目	主な展示手法	主な展示資料
D.ビデオルーム	来館者が自ら平和のためにできることを考え、行動するきっかけを提供する。	情報メディアコーナー	ビデオルーム	様々なメッセージ、被爆者の証言、平和団体の活動に触れることで、平和や核兵器廃絶に向けて実際に行動したり発信したりするきっかけをつかむ。		大型映像	既存映像、新規映像
			—		メッセージコーナー	PC+タッチペン、映像演出	来館者のメッセージを残す 来館者メッセージ表示
			—		大型映像	タッチパネル	被爆遺構検索 被爆樹木検索
			—		情報検索コーナー	PC検索	Q&A (更新型)
いこいの広場	—	フリースペース	平和活動団体ギャラリー	平和や核兵器廃絶に向けて発表の場			
			休憩コーナー	—	近隣誘導サイン ※既存PC撤去部に設置	—	—
全館	—	多言語解説	—	タブレット端末を導入予定	展示解説	—	既存：11カ国語対応
		音声解説	—		多言語音声ガイド (多言語)	—	既存：12カ国語対応 音声ガイドシステム
		子ども解説	—		展示解説	—	—





地下1階平面図

既存ゾーン名

A. 1945年8月9日

【ゾーンの目的】

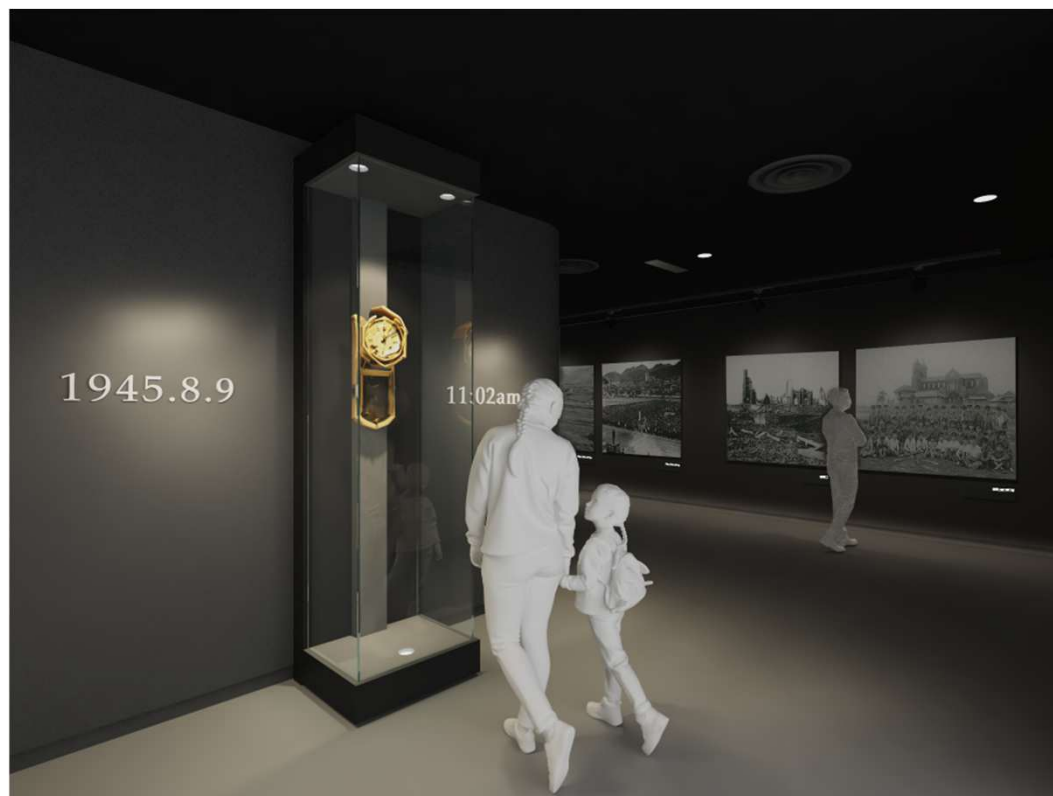
導入部。原爆投下により、長崎の街並みや人々の暮らしが一瞬で破壊されたことを伝える。

1. 1945年8月9日

【ねらい】

●1-2. 被爆前後の長崎

長崎に投下された原爆の威力や被害の惨状などを視覚的に理解したうえで、資料館の見学を始められるようにする。



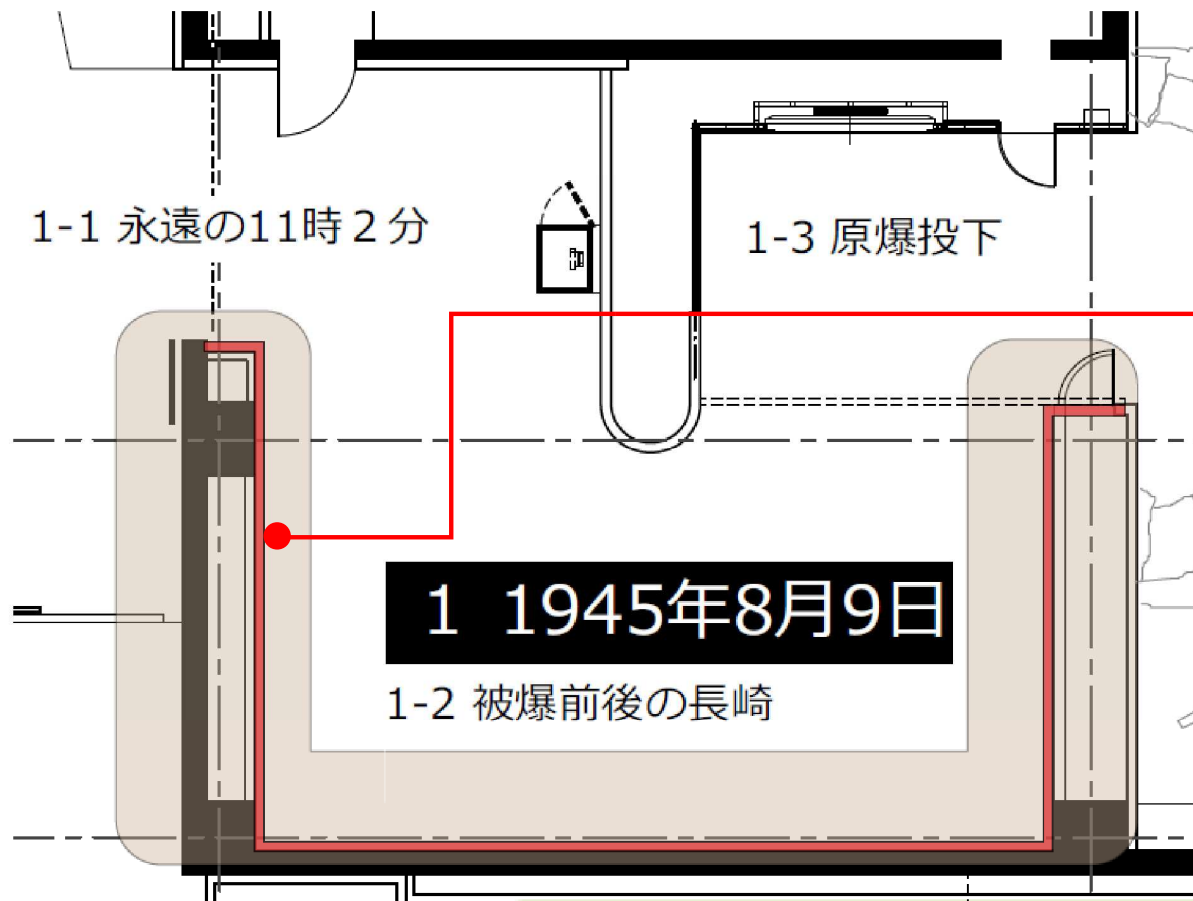
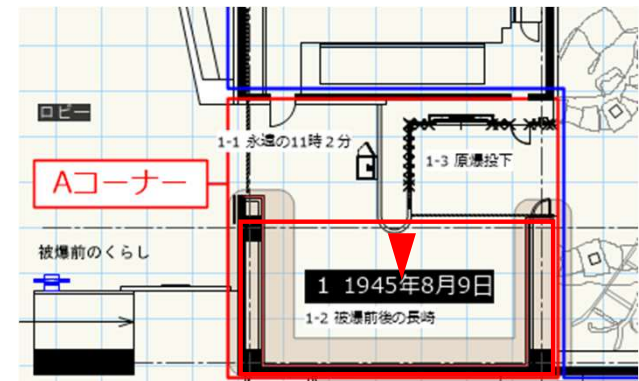
■ 1. 1945年8月9日

1-2. 被爆前後の長崎

【展示概要】

1-2. 被爆前後の長崎

被爆前後の様子を比較できる長崎の街並みの写真などを展示する。



● 展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

・ 被爆前後の長崎

展示手法/グラフィック・写真

(被爆前後の様子を比較できる写真など)

既存ゾーン名

B. 原爆による被害の実相

【ゾーンの目的】

被爆資料を通して、原爆被害の凄まじさや非人道性、惨状を理解してもらい、このような悲劇を二度と繰り返してはならないということを伝える。

2. 原爆による被害の実相

【ねらい】

●2-8. 放射線による被害

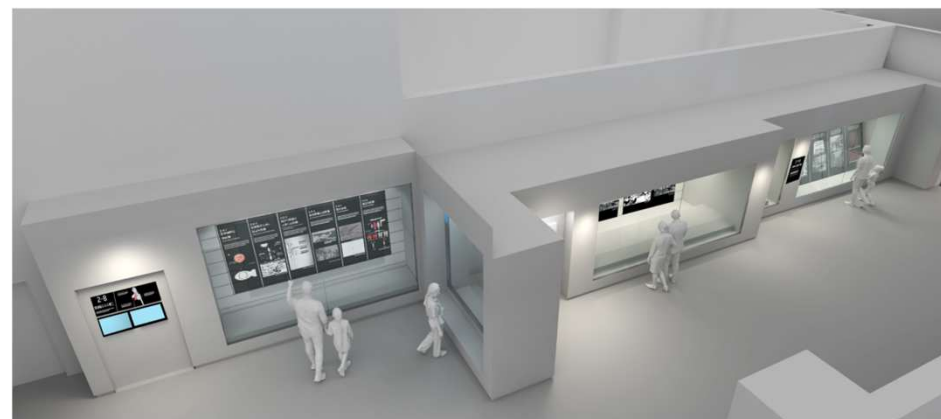
被爆者がいかに長く放射線に苦しめられ、またどのように向き合ってきたのか、医学の進歩による新しい知見も含め、わかりやすく伝えることで、原爆が単なる大きな爆弾ではなく、長期的な健康被害をもたらす特殊な爆弾であることを理解してもらおう。

●2-9. 救援・救護活動

被爆直後の困難を極めた救援・救護と、その活動に従事した人々について知ってもらおう。

●2-10. 被爆者と遺族の戦後

被爆者や遺族のエピソードを通して、原爆が長期にわたって人々を苦しめ続けた事実を認識してもらおう。

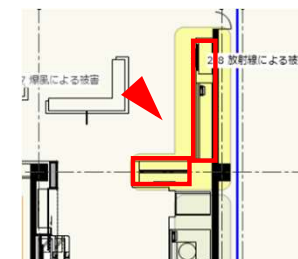
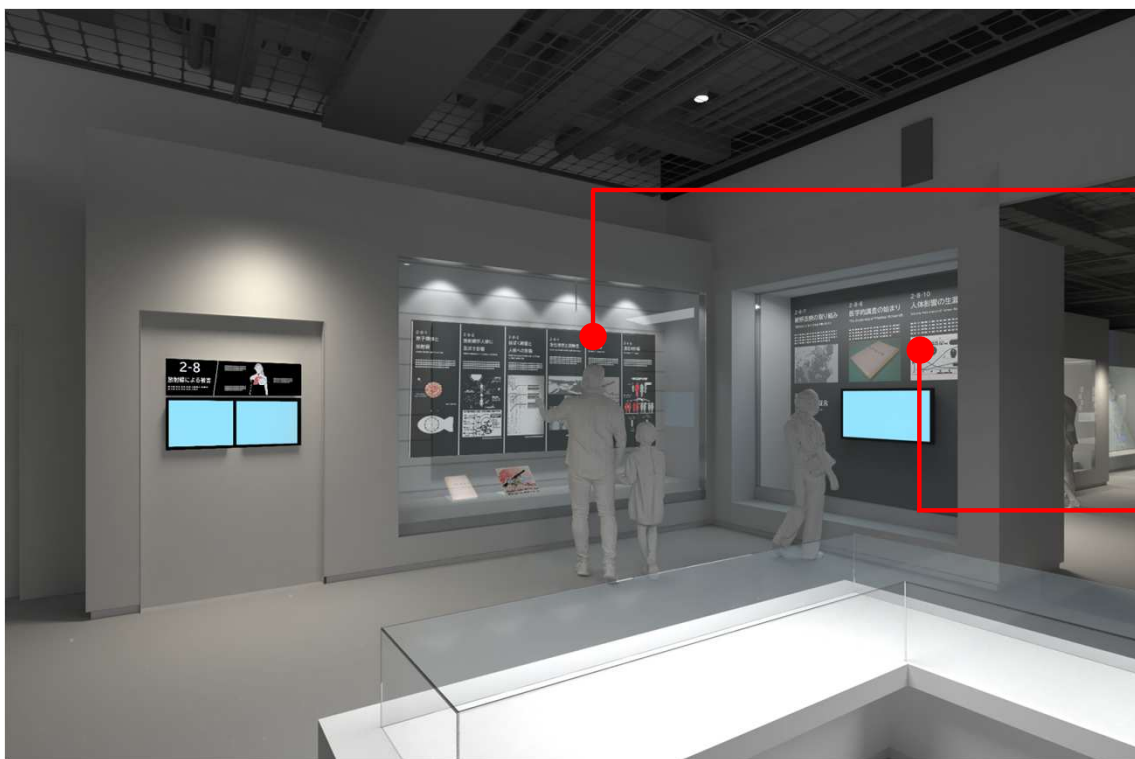


■ 2. 原爆による被害の実相

2-8. 放射線による被害

【展示概要】

原爆が通常の爆弾と異なるのは、放射線を放出することである。放射線は目に見えないが、細胞内部を傷付け、人体に深刻な影響を与える。放射線による影響は、初期のものでは皮下出血や下痢、脱毛などに現れる。そして、被爆から10年が経過すると、がんや白血病、白内障などを引き起こす。放射線による健康被害は生涯にわたって続き、被爆者は自分や子どもが重篤な病気にかかるかもしれないという不安や恐怖に脅かされている。人体への影響も未だ科学的に解明されていない中で、生涯消えることがない被爆者の労苦を紹介する。



● 展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- 2-8-1. 原子爆弾と放射線
展示手法/グラフィック
- 2-8-2. 放射線が人体に及ぼす影響
展示手法/グラフィック
(放射線の種類と性質、初期放射線と残留放射線の模式図など)
- 2-8-3. 被ばく線量と人体への影響
展示手法/グラフィック・写真
(放射線への感受性が高い部位と主な症状を示す人体図)
- 2-8-4. 急性障害と後障害
展示手法/グラフィック・写真・資料・絵画
(脱毛や皮下出血などの写真、急性障害で亡くなった被爆者に関する資料など)
- 2-8-5. 胎内被爆
展示手法/グラフィック・写真・資料・絵画
(被爆した妊婦が後年に描いた絵画、小頭症患者の写真など)
- 2-8-6. 遺伝的影響
展示手法/グラフィック

● 展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

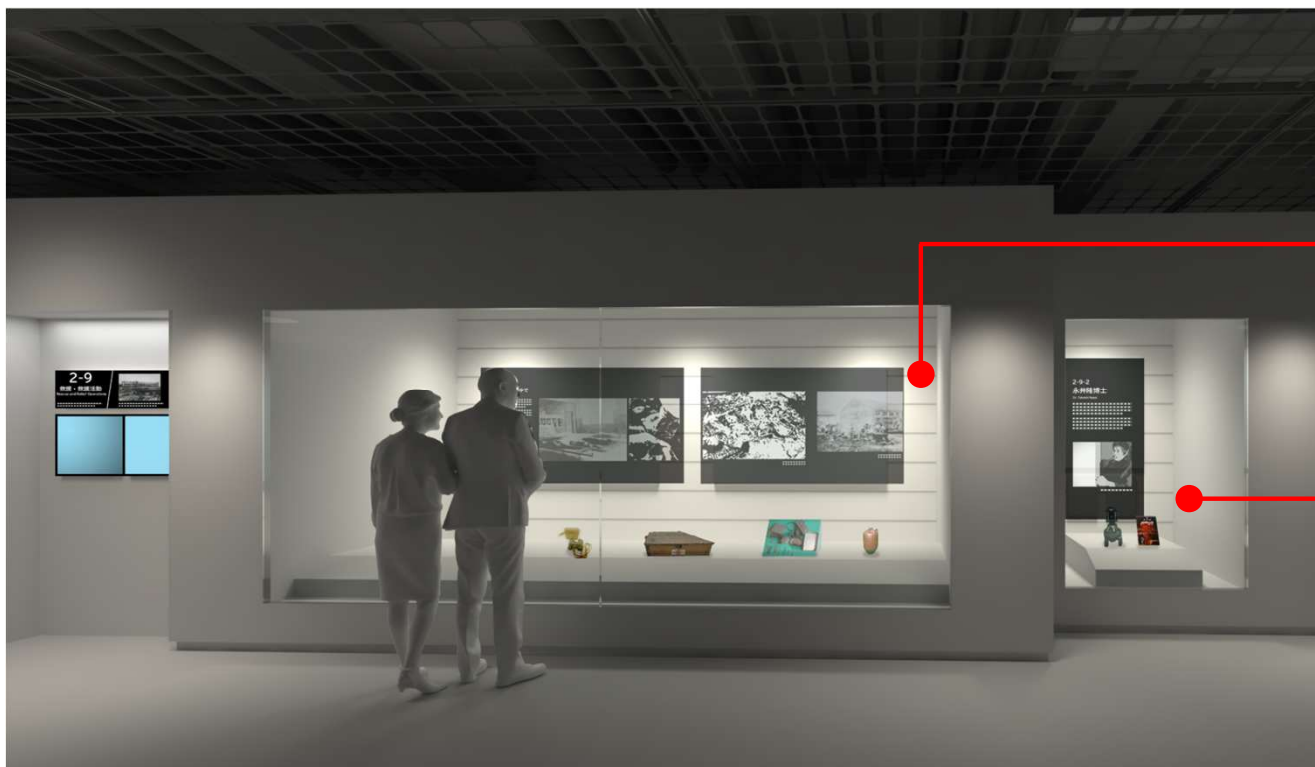
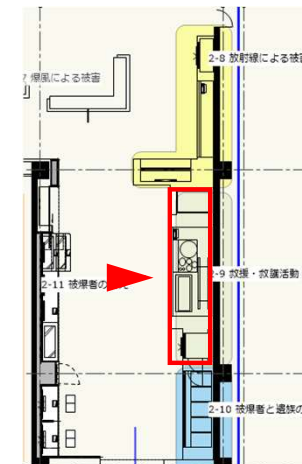
- 2-8-7. 被爆医療の取り組み
展示手法/グラフィック
- 2-8-8. 医学的調査の始まり
展示手法/グラフィック・写真
(調教授の手記、放射線による障害の図表など)
- 2-8-9. 被爆医師の証言
展示手法/グラフィック・写真・映像
(朝長先生の証言映像など)
- 2-8-10. 人体影響の生涯持続性
展示手法/グラフィック・写真
(MDSの増加を示す図表など)

■ 2. 原爆による被害の実相

2-9. 救援・救護活動

【展示概要】

原爆投下後、多くの負傷者が救助を待っていたが、治療の拠点となるはずの長崎医科大学は壊滅し、多くの医師や看護師も被爆した。救護活動に従事できる人や治療に必要な薬はあまりにも少なく、街は瓦礫の山で鉄道や道路も寸断されていた。そのような状況の中、必死の救護活動が始まった。夜になると、惨状を伝え聞いた周りの町から救援隊が派遣され、傷ついた人々への治療を行った。しかし、当時は放射線の影響を知る由もなく、救援隊の人々は爆心地付近に残る強い放射線にさらされることになった。過酷な状況の中で行われた救援・救護活動の実態を伝える。永井隆博士は、助教授を務める長崎医科大学付属病院で被爆した。自らも重い傷を負いながらも、負傷者の救護や原爆障害の研究に献身的に取り組んだ姿を紹介する。



● 展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

・ 2-9-1. 混乱と慟哭の中で

展示手法/グラフィック・写真・資料
(秋月辰一郎医師に関する資料、
救護所で使用された医療器具など)

● 展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

・ 2-9-2. 永井隆博士

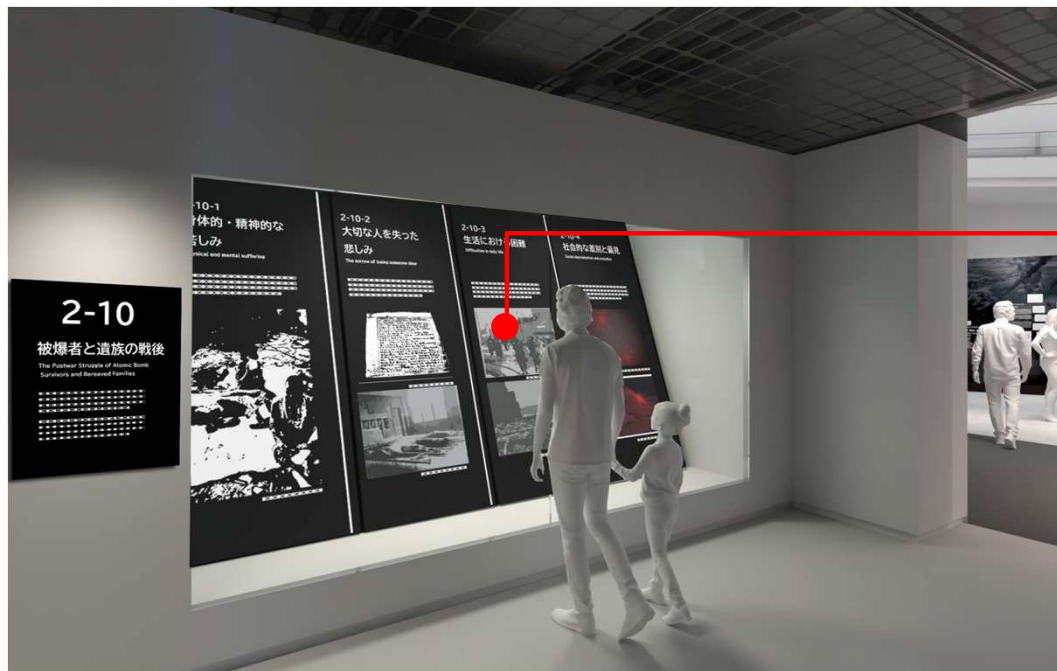
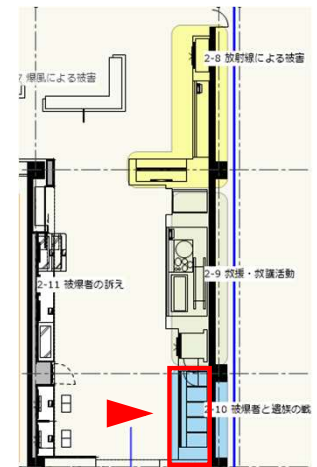
展示手法/グラフィック・写真・資料
(永井隆博士の写真や遺品など)

■ 2. 原爆による被害の実相

2-10. 被爆者と遺族の戦後

【展示概要】

原爆の惨状から辛うじて生き延びた人々も、様々な苦難に直面した。大切な家族や友人を失った悲しみや、体と心に残った傷や病を抱えて生きていかなければならなかった。廃墟となった長崎でいかに生活を立て直し、自分たちの「生きた証」や被爆体験をどのように後世へ残そうとしたのか、資料とともに紹介する。



● 展示小項目グラフィック

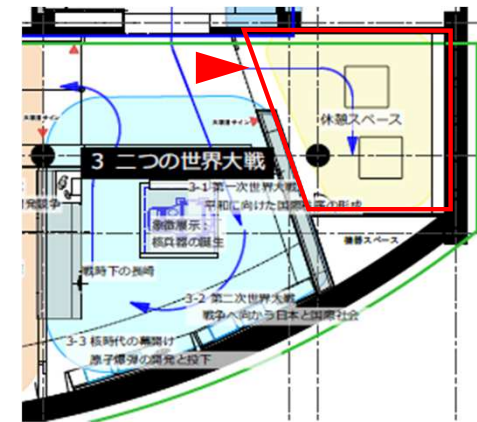
※ タイトル日英表記

- ・ **2-10-1. 身体的・精神的な苦しみ**
 展示手法/ケース内斜壁グラフィック・写真・資料
 (後遺症やトラウマを抱えた人々に関する資料など)
- ・ **2-10-2. 大切な人を失った悲しみ**
 展示手法/ケース内斜壁グラフィック・写真・資料
 (家族や友人を亡くした人々に関する資料など)
- ・ **2-10-3. 生活における困難**
 展示手法/ケース内斜壁グラフィック・写真・資料
 (原爆孤児や孤老、貧困にあえぐ人々に関する資料など)
- ・ **2-10-4. 社会的な差別と偏見**
 展示手法/ケース内斜壁グラフィック・写真・資料
 (就職や結婚の際に不当な扱いを受けた人々に関する資料など)

休憩スペース

【概要】

博物館疲労に対処するとともに、次のコーナーに向けて心を整える。
また、壁面スペースを活用し、平和関連施設やイベントなどの情報提供を行う。



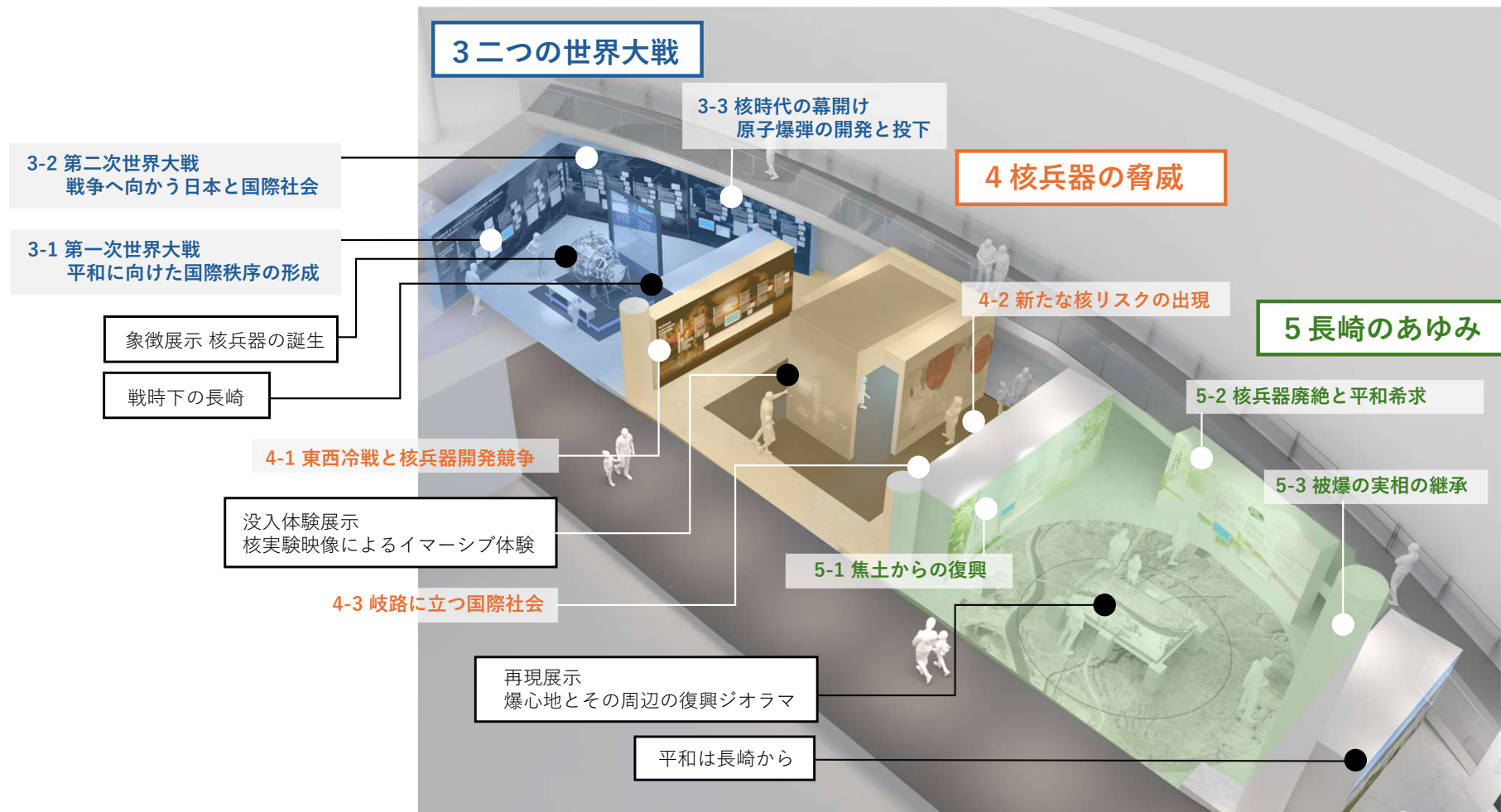
全体俯瞰図 (Cコーナー)

既存ゾーン名

C. 核兵器のない世界を目指して

【ゾーンの目的】

原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。



既存ゾーン名

C. 核兵器のない世界を目指して

【ゾーンの目的】

原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。

3. 二つの世界大戦

【ねらい】

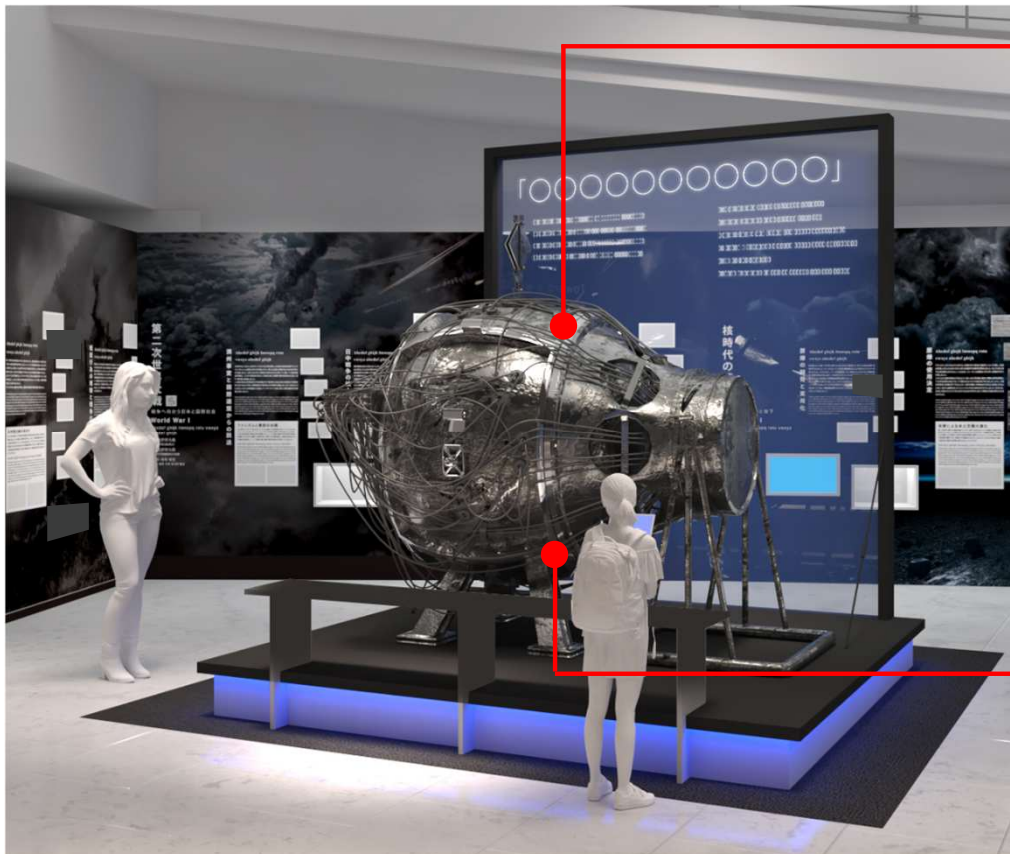
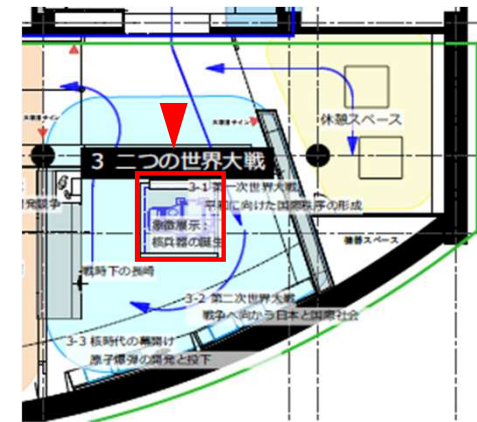
歴史をきちんと見つめることが未来につながるという姿勢のもと原爆投下の背景にあった歴史や原爆の開発から投下に至るまでの道のりを客観的かつ多角的な視点からわかりやすく説明することで、戦争から遠くなった世代が戦争の愚かさや核兵器の非人道性について考えられるようにする。



■ 3. 二つの世界大戦 象徴展示：核兵器の誕生

【展示概要】

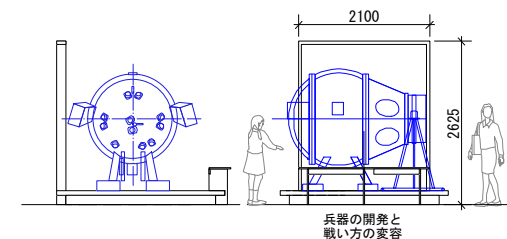
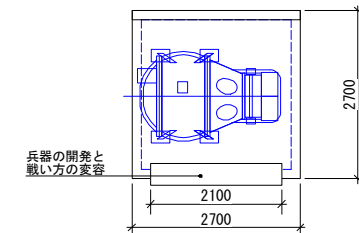
20世紀は科学技術が目覚ましい発展をとげ、人々の生活が豊かになった「科学技術の時代」であったが、二度にわたって世界大戦が起こった「戦争の時代」でもあった。そのため科学技術は兵器の開発にも利用され、最終的には大量破壊や殺戮を瞬時にもたらす大量破壊兵器・核兵器を生み出すことになる。象徴展示では、人類の滅亡をもたらすほどの力を持った核兵器の存在する「核の時代」の幕開けを象徴するものとして、人類初の核実験でさく裂した原子爆弾「ガジェット」の実物大模型を展示。その手前では、科学技術の発展や兵器の開発、戦い方の変化といった観点から核兵器の開発・使用に至った歴史的背景を説明する。



・象徴展示：核兵器の誕生

展示手法/グラフィック・写真

ガジェットの原寸模型・AR：原子爆弾さく裂の仕組み



・展示カウンター

「兵器の開発と戦い方の変容」

展示手法/グラフィック・写真

(毒ガスや戦車、飛行機の写真など)

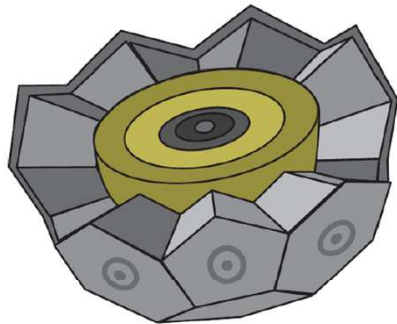
■ 3. 二つの世界大戦

象徴展示：核兵器の誕生

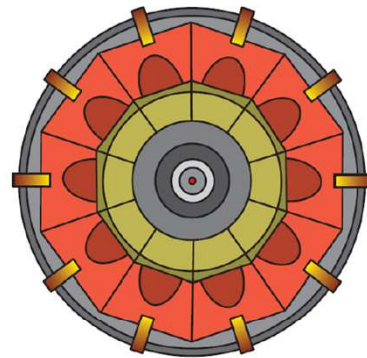
AR:原子爆弾のさく裂のしくみ

<概要>

- ・ QRコードを読み込むとARで爆縮レンズのCGが表示され、さく裂に至るアニメーションが再生される。
- ・ CGは画面の中央に表示されるため、CGがガジェットの中心に表示されるように、体験者が端末をガジェットに合わせてかざす。
(ポイントを合わせるガイドとしてガジェットの外形が薄いラインで表示される。)



爆縮レンズCG のイメージ爆



爆縮レンズ断面CG のイメージ

<展開>

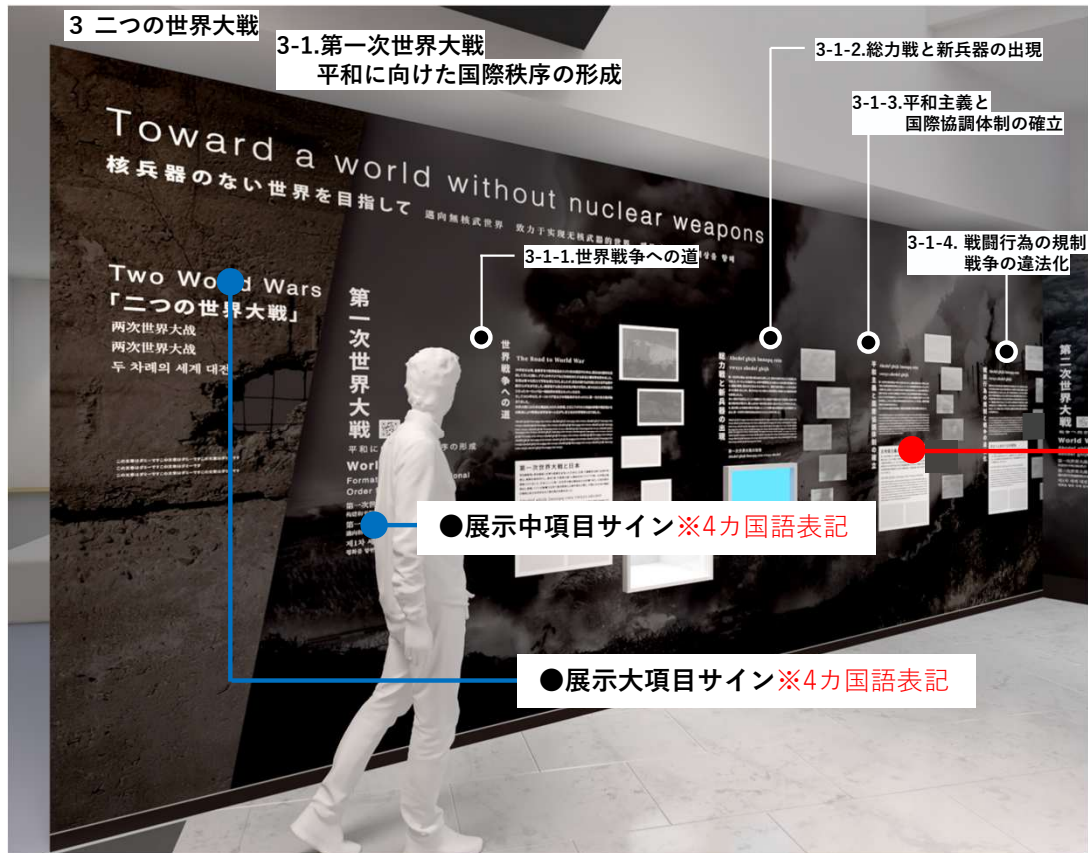
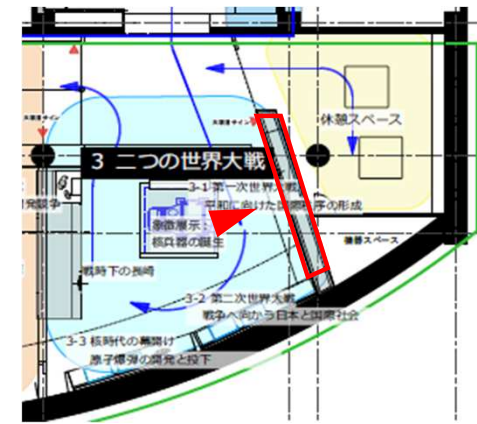
- ①QR コードを読み込むと言語選択画面が表示される。
 - ②1 1 言語のボタンから言語を選択する。
 - ③タイトルと、端末をガジェットに向ける旨の案内文が表示される。(5秒)
- 演出時間約 2 1 秒
- ④画面の中央に爆縮レンズのCG が表示される。(3秒)
ガジェットの中心に爆縮レンズが表示されるように
体験者が端末をガジェットに向けてかざす。
「爆縮レンズ」のキャプション。
 - ⑤外殻の一部が外れ火薬が現れる。(3秒)
「火薬」のキャプション。
 - ⑥火薬が外れダンパーが現れる。(3秒)
「ダンパー」のキャプション。
 - ⑦ダンパーが外れ球体が現れる。(1秒)
 - ⑧球体が外れプルトニウムが現れる。(3秒)
「プルトニウム」「直径89mm」「重さ6.2kg」のキャプション。
 - ⑨中心の中性子源が現れる。(3秒)
「中性子源」のキャプション。
 - ⑩CG が断面図に変わり、爆縮レンズ外殻から中心に向けて赤く
なっていく(3秒)
 - ⑪中心が黄色くなりさく裂の表現。(2秒)

■ 3. 二つの世界大戦

3-1. 第一次世界大戦 平和に向けた国際秩序の形成

【展示概要】

19世紀末の世界では、武力で植民地化・権益の奪取を行う帝国主義国家が現れた。そこでは勢力均衡により平和が保たれたが、民衆のナショナリズムや愛国心の高揚などを背景に国際社会はこれまでに経験したことのない世界戦争の道へと突き進んでいく。そして1914年に起こった第一次世界大戦は、軍隊だけでなく人的・物的資源の全てを戦争に動員する大規模な総力戦となり、次々と新兵器が開発・投入され、かつてない規模の犠牲を出した。こうした戦争の惨禍は、強力な平和思想をもたらし、戦後の国際社会では国際連盟や軍縮などによって戦争を防ぎ、平和を目指す国際協体制が確立。さらに生物化学兵器の使用を禁止し、戦争を違法化する国際条約がつけられた。



●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

● 3-1-1. 世界戦争への道

展示手法/グラフィック・写真・資料
 (帝国主義に関する写真や絵画、サラエゴを訪れたオーストリア皇位継承者夫妻の写真など)

● 3-1-2. 総力戦と新兵器の出現

展示手法/グラフィック・写真・映像
 (塹壕でガスマスクを着用した兵士の写真、第一次世界大戦の映像など)

● 3-1-3. 平和主義と国際協体制の確立

展示手法/グラフィック・写真
 (国際連盟第一回総会の写真、ワシントン会議の写真など)

● 3-1-4. 戦闘行為の規制と戦争の違法化

展示手法/グラフィック・写真
 (女性による反戦運動の写真、パリ不戦条約に署名・調印する各国全権の写真、戦闘行為や戦争を規制する国際法の表など)

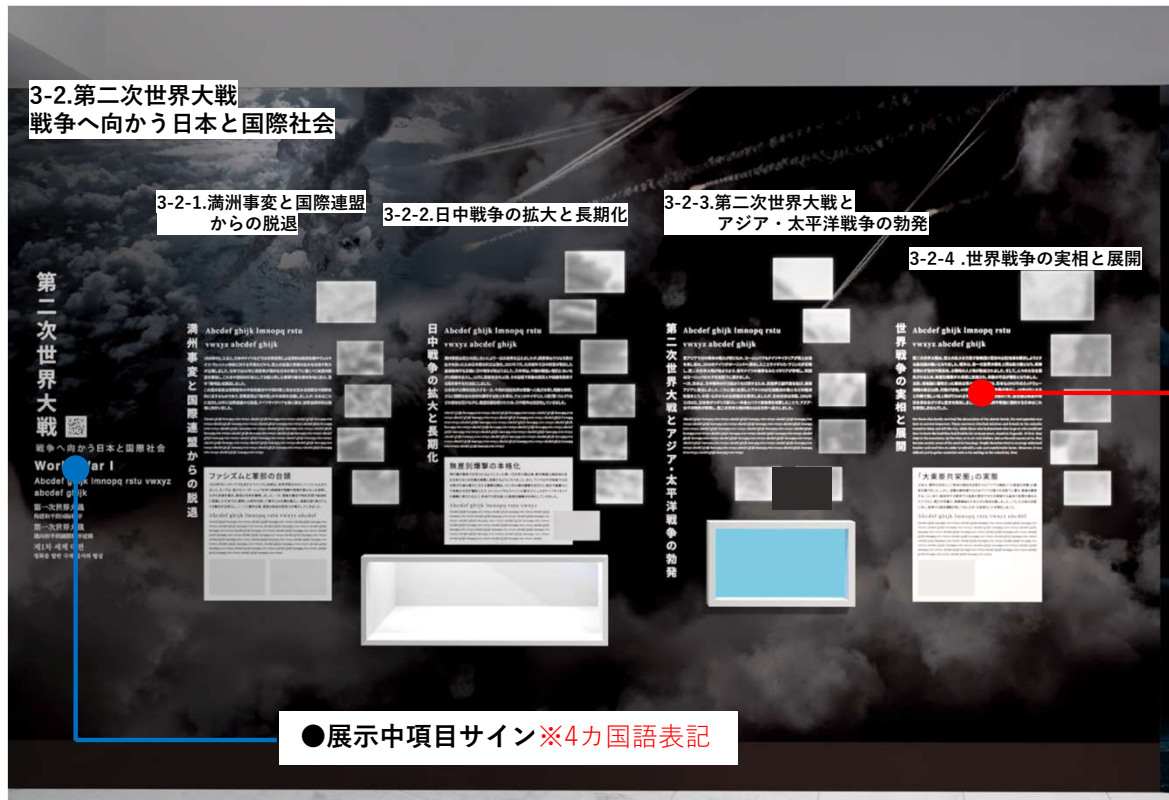
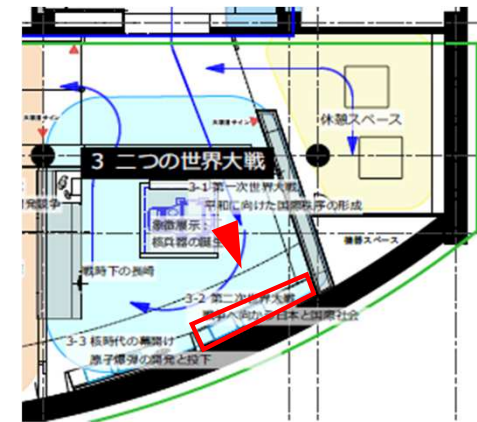
※資料展示や映像は必要に応じて配置
 (展示ケース:UVカットフィルム加工)

■ 3. 二つの世界大戦

3-2. 第二次世界大戦 戦争へ向かう日本と国際社会

【展示概要】

第一次世界大戦後の国際協調体制は、1930年代に入ると大きく揺らいでいった。1929年の世界恐慌以降、日本やドイツ、イタリアなどから国際社会の平和を脅かす動きが出てくる。日本では深刻な経済危機や政党政治の腐敗などを背景に軍部が台頭。満洲事変、国際連盟脱退、日中戦争と戦後の国際秩序から逸脱していく。さらにドイツとイタリアも日本の後に続き、ファシズムや軍国主義による政治を進める国々と民主主義を守ろうとする国々との対立は徐々に深化。国際社会は二度目の世界大戦へと向かっていった。



● 展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- 3-2-1. 満洲事変と国際連盟からの脱退
展示手法/グラフィック・写真
(満洲事変と満洲国建国に関する写真、「大満洲国」のチラシなど)
- 3-2-2. 日中戦争の拡大と長期化
展示手法/グラフィック・写真・資料
(日中戦争における日本軍の写真、国内の戦時体制に関する写真やポスターなど)
- 3-2-3. 第二次世界大戦とアジア・太平洋戦争の勃発
展示手法/グラフィック・写真・映像
(ポーランドを侵攻するドイツ軍の写真、真珠湾攻撃で炎上する戦艦アリゾナの写真など)
- 3-2-4. 世界戦争の実相と展開
展示手法/グラフィック・写真・資料
(連合国による空襲と破壊された街の写真、沖縄戦の写真など)

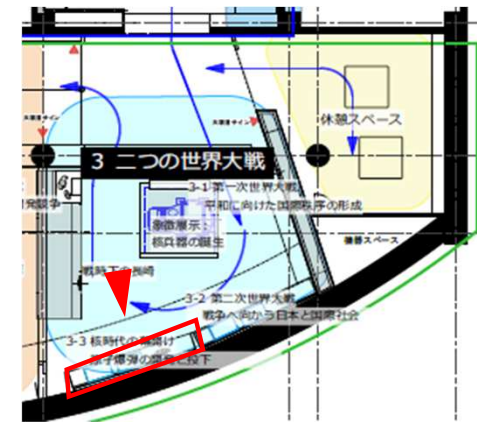
※資料展示や映像は必要に応じて配置
(展示ケース:UVカットフィルム加工)

■ 3. 二つの世界大戦

3-3. 核時代の幕開け 原子爆弾の開発と投下

【展示概要】

第二次世界大戦の開戦により世界が戦争に飲み込まれていく中で各国は核兵器の開発に乗り出し、第一次世界大戦後の国際秩序は完全に崩壊。アメリカも無差別爆撃や原爆の開発など国際法や人道に反する行為を実施していくことになる。そして広島・長崎に原爆が投下。日本の降伏により第二次世界大戦は終結したが、「核時代」は新たに幕を開け、世界は「冷たい戦争」に突入していく。



●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- 3-3-1. 原爆の開発と実用化
展示手法/グラフィック・写真・資料・映像
(モード委員会報告書の写真、トリニティ実験の映像、トリニタイトなど)
- 3-3-2. 原爆の使用決定
展示手法/グラフィック・写真
(ルーズベルト大統領とチャーチル首相の写真、原爆投下命令書の写真など)
- 3-3-3. 原爆投下に反対する人々
展示手法/グラフィック・写真
(ジョージ・マーシャルの写真、ジェームズ・フランクとフランクレポートの写真など)
- 3-3-4. 広島・長崎への原爆投下
展示手法/グラフィック・写真
(原爆投下の目標とされた都市の図、原爆で壊滅した広島と長崎の写真など)

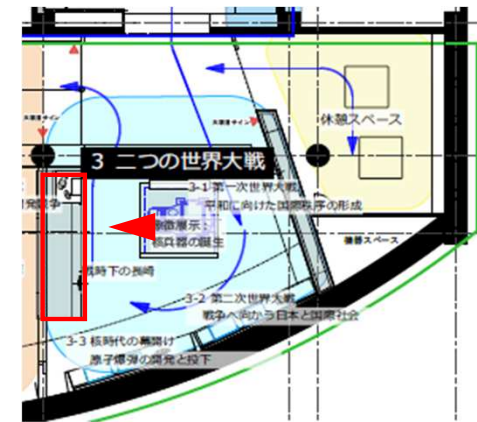
※資料展示や映像は必要に応じて配置
(展示ケース:UVカットフィルム加工)

■ 3. 二つの世界大戦

戦時下の長崎

【展示概要】

総力戦体制下にあった長崎では、兵士だけでなく、戦場の後方にあたる銃後の国民も戦った。とりわけ、長崎市は軍需産業都市であり、魚雷や戦艦などもつくられていた。開戦当初、長崎市民にとって戦争の脅威は遠い場所にあったが、戦局の悪化につれて空襲が激化し、8月9日を迎えることになる。



● 展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

・ 1. 軍需産業都市・長崎

展示手法/グラフィック・写真・映像
(戦艦武蔵や九一式魚雷の写真、被爆前の長崎の街並みを写した映像など)

・ 2. 長崎から戦場へ

展示手法/グラフィック・写真・資料
(長崎市内における出征風景の写真、千人針や恩賜の煙草など)

・ 3. 銃後の暮らし

展示手法/グラフィック・写真・資料
(大日本国防婦人会の写真、戦地に発送する慰問袋の写真など)

・ 4. 勤労働員の日々

展示手法/グラフィック・写真・資料
(軍需工場に動員される学生の写真、学徒報国隊の腕章など)

・ 5. 警報下の長崎と空襲

展示手法/グラフィック・写真・資料
(防空演習の写真、防空頭巾とモンペなど)

※資料展示や映像は必要に応じて配置
(展示ケース:UVカットフィルム加工)

既存ゾーン名

C. 核兵器のない世界を目指して

【ゾーンの目的】

原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。

4. 核兵器の脅威

【ねらい】

核兵器の開発をめぐる複雑な歴史や国際情勢、そして近年、核兵器使用の危険性が高まっていることを伝えることで、誰もが核兵器が存在する世界に生きる当事者であると自覚してもらうとともに、被爆地をはじめ、世界の多くの人が核兵器廃絶のための活動に取り組んでいることを知ってもらう。

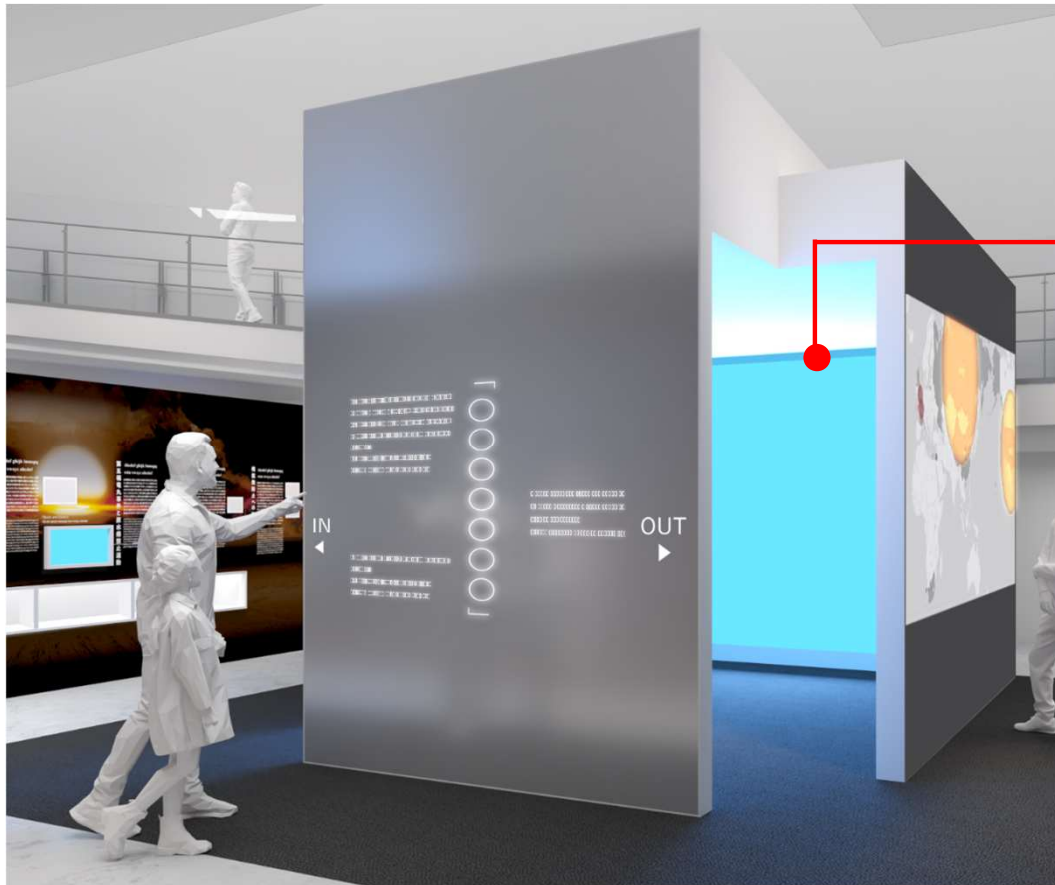
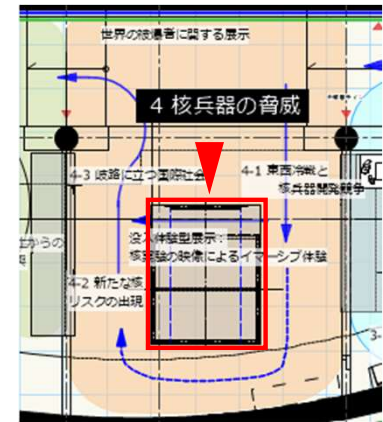


■ 4. 核兵器の脅威

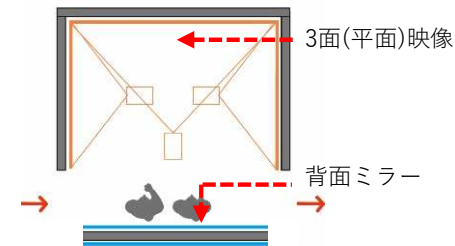
没入体験型展示：核実験映像によるイマーシブ体験

【展示概要】

1945年以降、2000回を超える核実験が行われた。多くの人々が被ばくし、現在でも深刻な健康被害を訴えている。また、地球環境にも甚大な被害を与えた。イマーシブ体験を通して、核実験が及ぼす影響を身近なものとしてとらえ、核兵器の問題に自ら向き合うための意識を涵養する。



・没入体験型展示：
核実験映像によるイマーシブ体験
展示手法/体験型映像



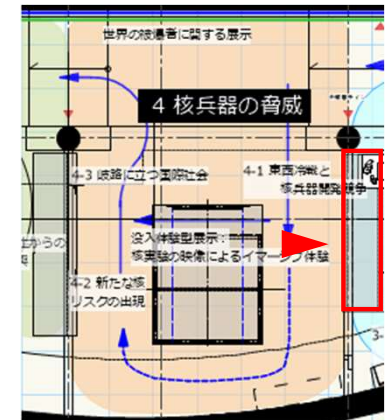
3面映像と背面のミラー
を組み合わせることで没入感を
向上します。

■ 4. 核兵器の脅威

4-1. 東西冷戦と核兵器開発競争

【展示概要】

第二次世界大戦後、世界の平和と安全の維持を目的に国際連合が発足した。一方で、米ソの対立は深刻化し、核軍拡競争がエスカレートしていく。世界各地で核実験が実施される中、第五福竜丸事件が起こり、核実験に反対する市民運動が広がる。政治レベルでは、キューバ危機により核戦争の危機に直面した。核戦争になれば、地球全体を破滅させることに気づき、核兵器を使用しないという認識が生まれ、核軍縮や核不拡散条約へとつながった。



● 展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- ・ 4-1-1. 原子力の国際管理の失敗
展示手法/グラフィック・写真・資料
(冷戦の構造を示す地図など)
- ・ 4-1-2. 原子爆弾から水素爆弾へ
展示手法/グラフィック・写真・資料
(水爆実験の写真、
世界終末時計に関する資料など)
- ・ 4-1-3. 第五福竜丸事件と原水爆禁止運動
展示手法/グラフィック・写真・資料・模型
(第五福竜丸事件に関する資料、
原水爆禁止世界大会の写真など)
- ・ 4-1-4. 世界が最も核戦争に近づいた日
展示手法/グラフィック・写真
(キューバ危機の写真など)
- ・ 4-1-5. 核拡散防止への取組み
展示手法/グラフィック・写真・資料
(核兵器廃絶への取組みに
関する写真や資料など)

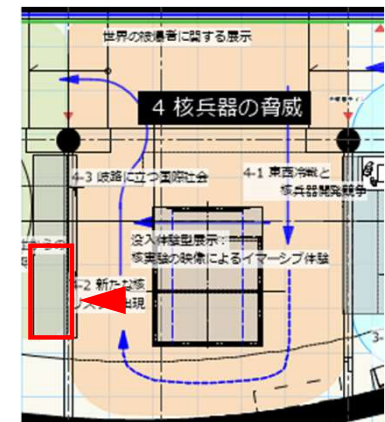
※資料展示や映像は必要に応じて配置
(展示ケース:UVカットフィルム加工)

■ 4. 核兵器の脅威

4-2. 新たな核リスクの出現

【展示概要】

冷戦の終結と旧ソ連の崩壊に伴う核兵器開発技術の流出や、既存の核軍縮・不拡散政策に対する反発などを背景として、アジアと中東において核拡散が進み、さらには核テロのリスクが台頭した。一方で、核軍縮・核兵器廃絶に向けて努力が重ねられた。



●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- ・4-2-1. 核軍縮の前進とアジア・中東での核拡散
展示手法/グラフィック・写真・資料
(新興核保有国の核開発に関する資料など)
- ・4-2-2. 核兵器関連物質と開発技術の流出
展示手法/グラフィック
(核の闇市場に関する図など)
- ・4-2-3. 核テロの危険性
展示手法/グラフィック・写真
(想定される核テロリズムの図など)

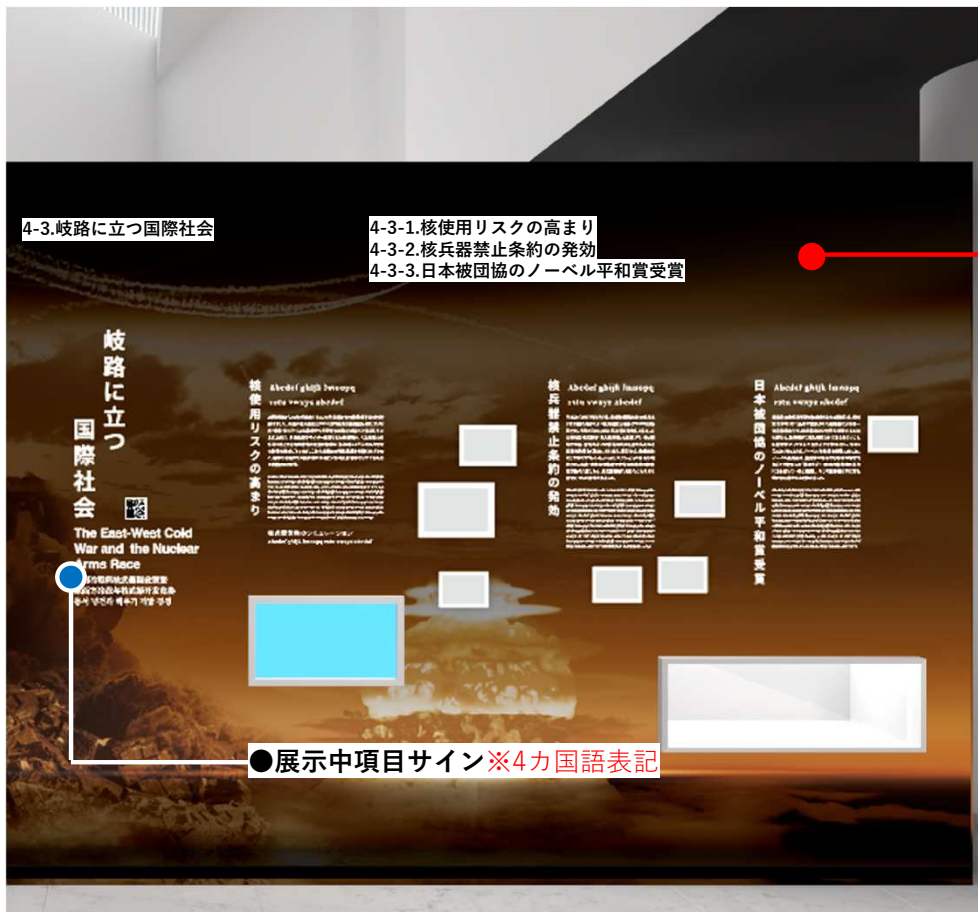
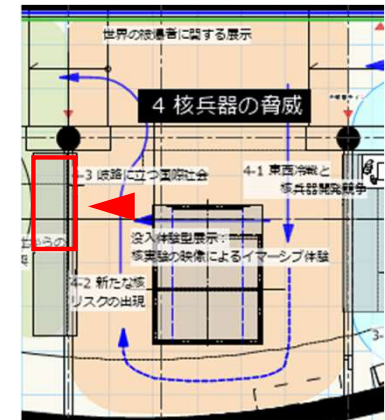
※資料展示や映像は必要に応じて配置
(展示ケース:UVカットフィルム加工)

■ 4. 核兵器の脅威

4-3. 岐路に立つ国際社会

【展示概要】

ポスト冷戦期も過ぎ、大国間の核軍拡競争が再燃する。加えて、既存の国際秩序を変更しようという動きや、武力侵攻に核の脅しを用いる動きが現れ、核兵器使用のリスクが急速に高まっている。一方で、核兵器の非人道性に注目が集まり、核兵器禁止に向けた国際気運が増大している。2021年に核兵器禁止条約が発効し、2024年に日本被団協が「核兵器なき世界の実現」に努力したとしてノーベル平和賞を受賞した。



●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- 4-3-1. 核使用リスクの高まり
 展示手法/グラフィック・映像
 (核兵器使用のシミュレーション、「核の脅し」を報じる新聞記事など)
- 4-3-2. 核兵器禁止条約の発効
 展示手法/グラフィック・写真・資料
 (核兵器禁止条約の採択時の写真など)
- 4-3-3. 日本被団協のノーベル平和賞受賞
 展示手法/グラフィック・写真・資料
 (ノーベル平和賞の授賞式の写真など)

※資料展示や映像は必要に応じて配置
 (展示ケース:UVカットフィルム加工)

既存ゾーン名

C. 核兵器のない世界を目指して

【ゾーンの目的】

原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。

5. 長崎のあゆみ

【ねらい】

長崎の平和と核兵器廃絶に向けた取り組みが過去から現在に至るまで絶え間なく続いていることを示すことで、長崎市民の平和と核兵器廃絶に対する願いに共感してもらい、未来へ受け継いでもらう。



■ 5. 長崎のあゆみ

再現展示：爆心地とその周辺の復興ジオラマ

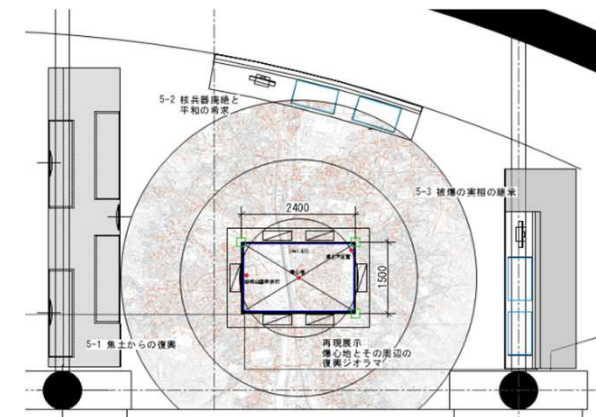
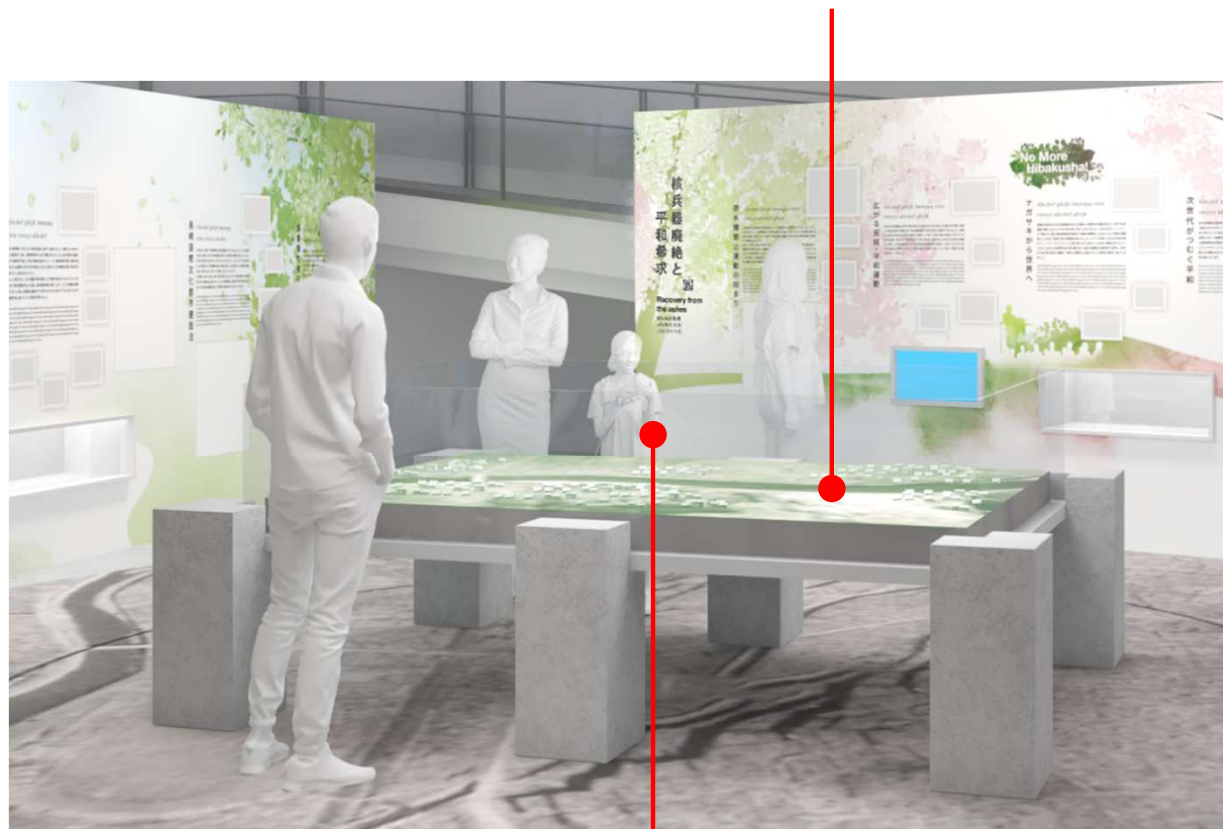
【展示概要】

平和祈念像や長崎国際文化会館が完成した1955年の爆心地周辺をジオラマで再現することで被爆から10年後の街の様子を知る。あわせてターゲットARで詳細情報を提供するとともに、現在の爆心地周辺を表示することで、焦土と化した長崎の街がどれほどの復興を遂げたのか知ってもらう。

・再現展示：爆心地とその周辺の復興ジオラマ

展示手法/原爆投下から10年が経過した爆心地付近の様子 縮小ジオラマ (S=1/400)

AR：被爆直後、1955年、現在の写真・映像比較



模型は縮尺1/400程度とし、旧城山国民学校と浦上天主堂が入るようにする。

・ターゲットAR

■ 5. 長崎のあゆみ

再現展示：爆心地とその周辺の復興ジオラマ

AR&VR：被爆直後、原爆投下から10年後（1955年）

現在の写真

<概要>

- ・QRコードを読み込むと、「原爆投下から10年後の爆心地付近のジオラマ」にARでポイントが表示され、被爆直後、10年後、現在の街の変化を検索する。
- ・ジオラマに対して4方向別のQRコードを設置。読み込むQRコードによって表示されるポイントが異なる。
- ・ARで表示されたポイントを押すと、写真・映像が表示される。
(各時代によって表示される写真が変化)
- ・ポイントは画面の定位置に表示されるため、ポイントがジオラマ内に表示されるように、体験者が端末をジオラマに合わせてかざす。
(ポイントを合わせるガイドとしてジオラマの外形が薄いラインで表示される)

<展開>



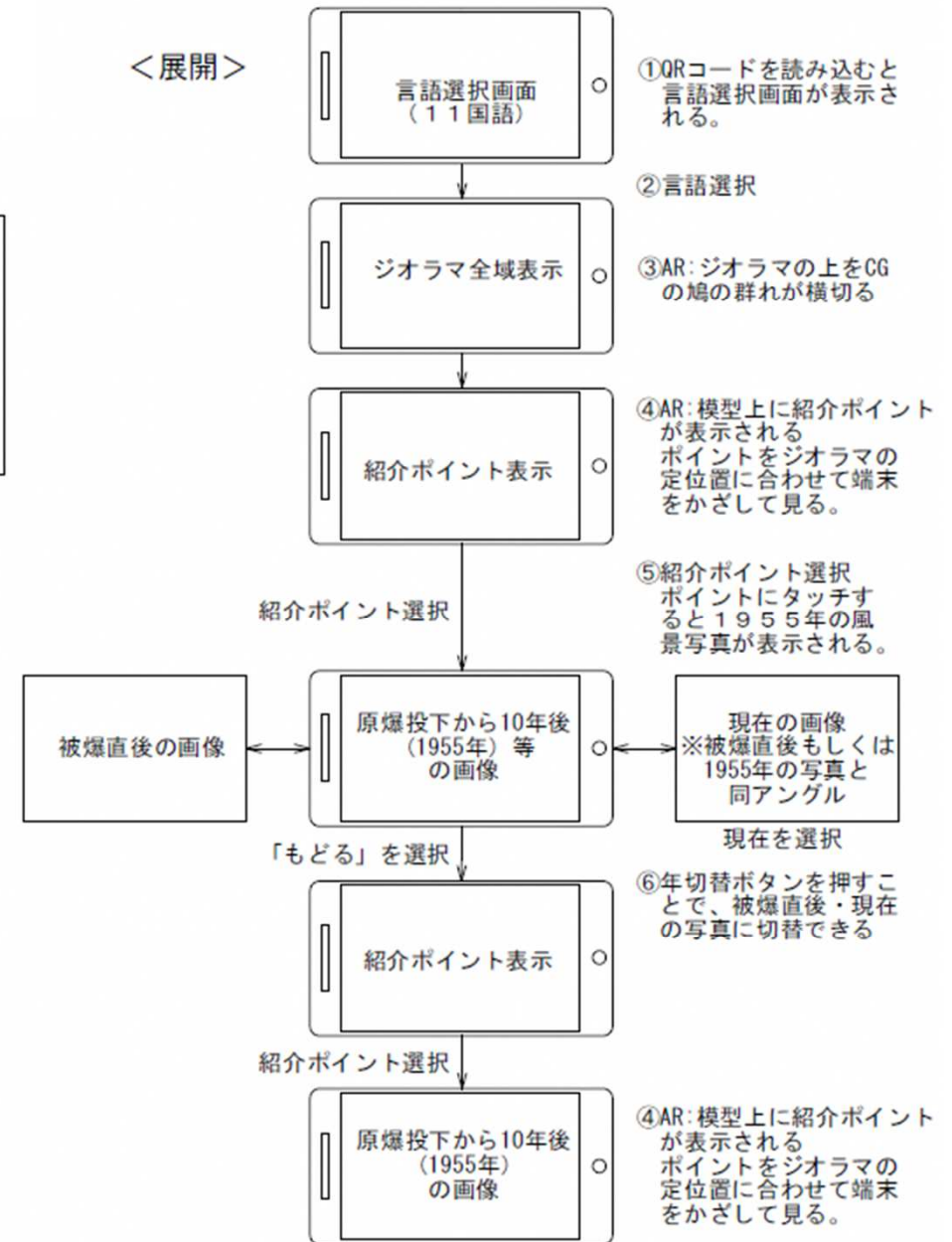
原爆投下から10年後の爆心地付近のジオラマ S≒1/400

<ポイント候補>

- ・全景
- ・爆心地
- ・平和公園
- ・浦上天主堂
- ・城山小学校
- ・山王神社の烏居
- ・山王神社の大楠
- ・長崎医科大学等 10ポイント

※全景と爆心地はどの方向（QRコード）にも含まれる

<展開>



■ 5. 長崎のあゆみ

5-1. 焦土からの復興

【展示概要】

長崎の街は原爆で焼け野原となり、「70年は草木も生えない」と言われたが、9月に入るとかすかに草木が芽生え、人々は生きる希望を見出した。やがて人々は、壊れた建物の木材などを集めて、寝起きができるほどの小屋を建て、街は少しずつ活気を取り戻していった。原爆により恐ろしい体験をした長崎市民は、平和に対する強い願いから「平和は長崎から」を合言葉に「恒久平和の理想」を達成する国際文化都市を目指してまちづくりを始めていった。



● 展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- 5-1-1. 被爆後の暮らし
展示手法/グラフィック・写真・資料・映像
(焼け跡に建てられたバラックの写真、被爆後の街の様子を写した映像など)
- 5-1-2. 占領軍の駐屯と都市機能の復旧
展示手法/グラフィック・写真
(デルノア通りの看板を見るデルノア氏とキャサリンの写真、岩川町の戦災復興住宅の写真など)
- 5-1-3. 長崎国際文化都市建設法
展示手法/グラフィック・写真・資料
(長崎国際文化都市建設の平和宣言を行う長崎市長の写真、平和祈念像や長崎国際文化会館の写真など)
- 5-1-4. 原爆犠牲者の慰霊と平和祈念
展示手法/グラフィック・写真・資料
(原爆犠牲者慰霊並びに平和祈念式典の写真、平和宣言文など)

※資料展示や映像は必要に応じて配置
(展示ケース:UVカットフィルム加工)

■ 5. 長崎のあゆみ

5-2. 核兵器廃絶と平和希求

【展示概要】

被爆から数年間はGHQのプレスコードにより原爆被害の実態が覆い隠されたため、被爆者は沈黙を強いられた。しかし、1954年の第五福竜丸事件をきっかけに原水爆禁止と被爆者援護を求める運動が起こり、長崎の被爆者は被爆体験と被爆者の実情を訴えることで運動に参加していった。こうした平和や核兵器廃絶を求める動きは市民や行政にも広がり、以来、長崎の人々は原爆被爆都市の使命として、核兵器の脅威を世界に訴え、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて努力を続けている。



●展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- 5-2-1. 原水爆禁止運動の始まり
展示手法/グラフィック・写真・資料
(第2回原水爆禁止世界大会の写真、被爆体験を証言する被爆者の写真など)
- 5-2-2. 広がる反核・平和運動
展示手法/グラフィック・写真
(平和首長会議や非核宣言自治体協議会の写真、長崎平和推進協会やながさき平和大集会の写真など)
- 5-2-3. ナガサキから世界へ
展示手法/グラフィック・写真・映像
(国連で演説する山口仙二さんの映像、海外原爆展の写真など)
- 5-2-4. 次世代がつむぐ平和
展示手法/グラフィック・写真
(高校生平和大使の写真、高校生1万人署名活動の写真、ナガサキ・ユース代表団の写真など)

※資料展示や映像は必要に応じて配置
(展示ケース:UVカットフィルム加工)

■ 5. 長崎のあゆみ

5-3. 被爆の実相の継承

【展示概要】

長崎市では、街の復興が進み、市内の瓦礫が片付けられていく中で、貴重な被爆資料が撤去されていく状況に懸念が高まり、1949年より被爆資料の収集・保存活動が始まった。さらに原水爆禁止運動の盛り上がりや戦争を知らない世代の増加等を背景として、様々な形で被爆体験を記録し、後世へ残そうとする動きが活発になっていった。こうした被爆者や遺族の活動は若い世代に受け継がれ、現在に至っている。



● 展示小項目グラフィック

※タイトル日英表記

- ・ 5-3-1. ナガサキを残し、伝える
 展示手法/グラフィック・写真・資料
 (長崎市原爆資料館(通称:六角堂)の写真、長崎の証言の会『長崎の証言』など)
- ・ 5-3-2. 被爆遺構の保存と活用
 展示手法/グラフィック・写真・映像
 (被爆遺構や被爆樹木の写真など)
- ・ 5-3-3. 未来につなぐ被爆の記憶
 展示手法/グラフィック・写真
 (家族・交流証言者や青少年ピースボランティアの写真など)

※資料展示や映像は必要に応じて配置
 (展示ケース:UVカットフィルム加工)

● 展示中項目サイン ※4カ国語表記

■ スロープ壁面

世界のヒバクシャなどに関する展示

【展示概要】

冷戦期を通じて、世界では2,000回以上の核実験が繰り返され、住民の強制移住や健康被害が地球規模で広がった。核実験の歴史、核実験国と核実験場の関係性、多くの被害者を生み出しながらも核開発が続いた背景などを読み解きながら、「核兵器の非人道性」や「核兵器と人類は共存できない」ことをあらためて訴える。

展示手法/グラフィック・写真
 (核実験の被害者に関する写真など)

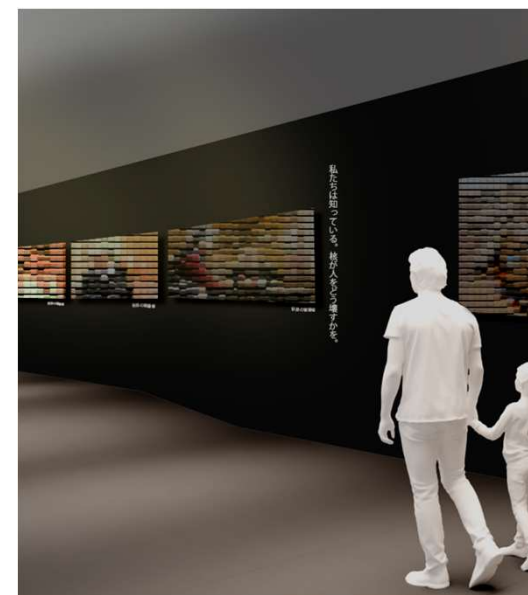


長崎の被爆者などに関する展示

【展示概要】

「復興」という言葉では表せない被爆者の苦しみや悲しみ、そこから核兵器廃絶や平和に向けて立ち上がっていった様子など原爆の被害に遭った人々を写した印象的な写真と言葉から「あの日」長崎にいた一人ひとりの過去から現在までの生き様を伝え、その想いを来館者に受け継いでもらう。

展示手法/グラフィック・写真
 (原爆の被害に遭った人々の戦後のライフストーリーを表す写真や言葉、被爆者と若い世代が協同している写真など)

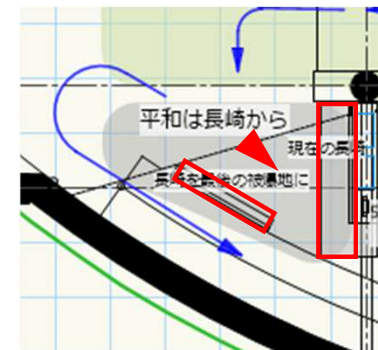


既存ゾーン名

C. 核兵器のない世界を目指して

【ゾーンの目的】

原爆投下に至る歴史や戦後の核兵器開発競争、長崎の平和に向けた歩みを紹介し、平和について考えるきっかけを提供する。



平和は長崎から 【ねらい】

最後にあらためて「長崎を最後の被爆地に」のメッセージを共有してもらおう。

●長崎を最後の被爆地に

展示室の最後に「長崎を最後の被爆地に」を世界各国の言語で表示することで心に刻んでいただく。



・現在の稲佐山からの風景写真

既存ゾーン名

D. ビデオルーム

【ゾーンの目的】

来館者が自ら平和のためにできることを考え、行動するきっかけを作る。

情報メディアコーナー

【ねらい】

常設展示や企画展を見て平和や核兵器廃絶に向けて実際に行動できる心を育む。

●ビデオルーム

●情報メディアコーナー

様々なメッセージ、被爆者の証言、平和団体の活動に触れることで、平和や核兵器廃絶に向けて実際に行動したり、発信したりするきっかけをつかむ。



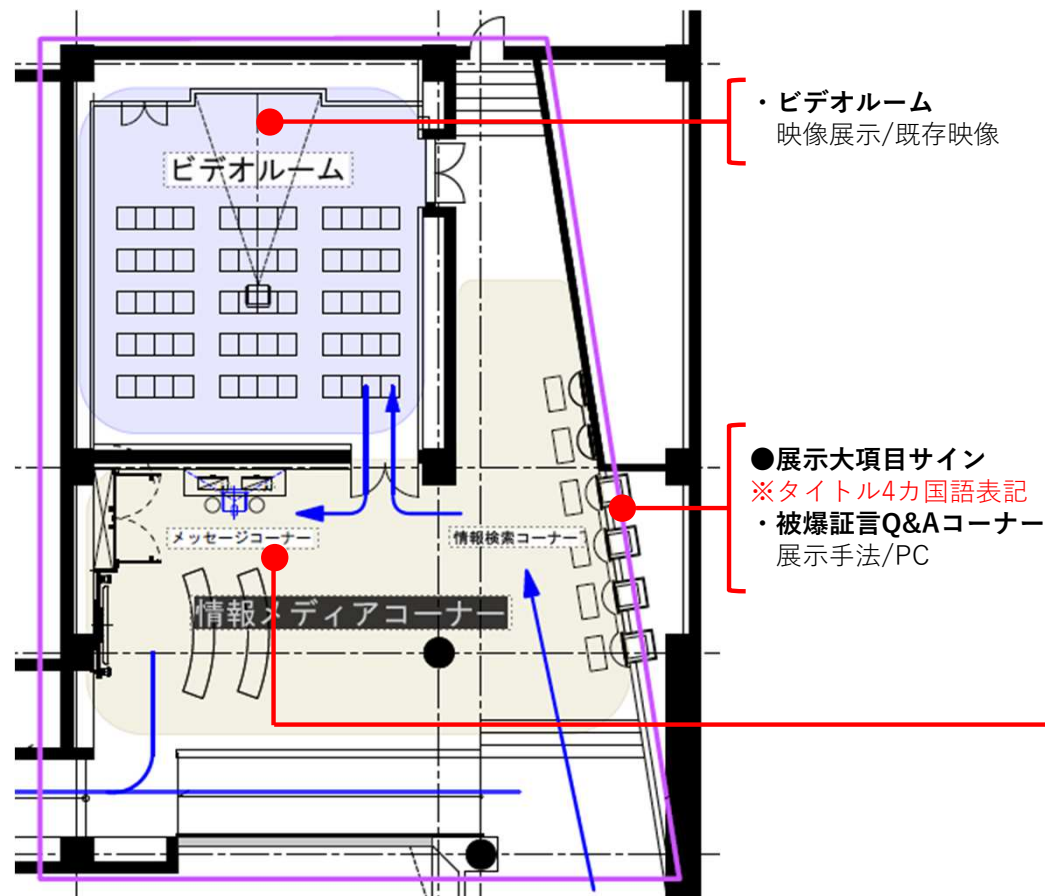
■ 情報メディアコーナー

ビデオルーム/情報メディアコーナー

【展示概要】

- ・ビデオルーム
- ・情報メディアコーナー

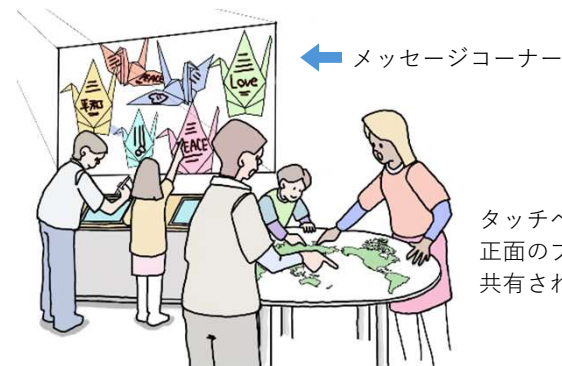
来館者がメッセージを残し、平和に対する想いを共有するスペースを設置する。



メッセージコーナー

展示を見た来館者や子どもたちの想いを蓄積・共有

展示を通して子どもたちが感じた想いやメッセージを大型映像で投影します。
核兵器の使用リスクが高まっている現在、海外の来館者の想いも共有することで、自ら平和を考えるきっかけを作ります。



タッチペンでメッセージを残すと正面のプロジェクターに投影、共有される

◆年齢や障がいの有無、言語などにかかわらず、多くの人々が利用可能なデザインの採用

(高齢者、身障者、外国人など見学弱者への配慮)

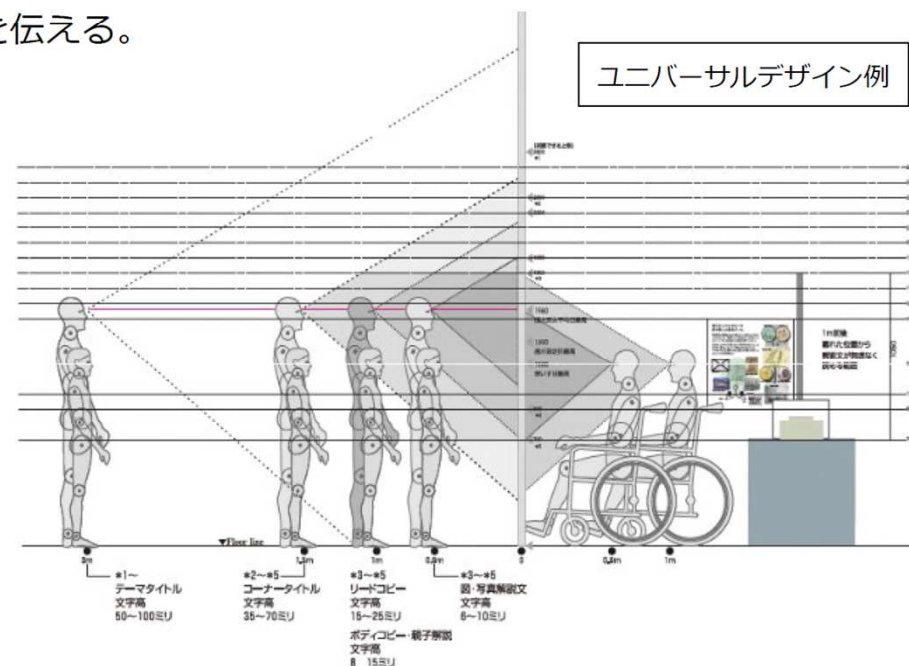
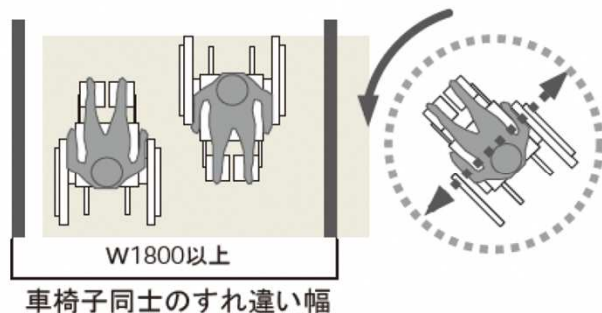
○海外の方を含め、多様な人が訪れる施設として、ユニバーサルデザインの考え方に基づく施設づくりを推進する。

○わかりやすい動線、通路幅の確保など、より快適で安全に移動できる空間づくりを行う。

○来館者の博物館疲労を軽減するため、適切な箇所に休憩スペースを用意する。

○わかりやすい館内サイン、読みやすい解説パネル、多言語での対応など、だれもが容易に理解でき、行動できる表示を行う。

- ・身長差などを考慮した視覚範囲内での展示を基本とする。
- ・視覚に障がいのある方に対しては、点字による解説等を導入する。
- ・弱視の方にも認識しやすいUDフォントの採用、適切な文字の大きさ、分量に配慮する。
- ・色弱の方にも判別しやすい色、アウトラインの採用で的確に内容を伝える。
- ・聴覚障がいのある方に対しては、テロップ等で内容を伝える。



- 施工中の来館者への配慮、安全確保を確実にいき翌朝の開館に支障のない施策を施します

対応方針

- 施工計画書を提出し、定期的な連絡のもと、現場施工の予定や報告を確実に行う。
- 来館者への安全確保、騒音、粉塵、臭いの対策として、作業は夜間工事で行う。
- 臭いの残る揮発成分を含む仕上げ材は極力使用しない。
- 作業時は養生シートを使用し、粉塵が作業区画から出ないように対策する。併せて、作業終了時の清掃を徹底する。
- 仮設パネルには、リニューアルオープンの情報などを掲示し、期待感を醸成することで来館者の再訪を促します。
- 来館者が見学できないコーナーを減らすべく、一斉に全コーナーの区画は行わず、状況に合わせて段階的に区画して作業を行う。



仮囲い参考